

平成25年11月27日招集

## 茂原市議会定例会会議録（第3号）

### 議事日程（第3号）

平成25年12月5日（木）午前10時00分開議

#### 第1 一般質問

- (1) 佐藤栄作議員
- (2) 金坂道人議員
- (3) 細谷菜穂子議員
- (4) 三橋弘明議員
- (5) 前田正志議員

# 茂原市議会定例会会議録（第3号）

平成25年12月5日（木）午前10時00分 開議

○議長（腰川日出夫君） おはようございます。ただいまから本日の会議を開きます。

現在の出席議員は23名であります。したがって、定足数に達し会議は成立しました。

————— ☆ ————— ☆ —————

## 議 事 日 程

○議長（腰川日出夫君） 本日の議事日程はお手元に配付してありますので、それにより御了承願います。

————— ☆ ————— ☆ —————

## 一 般 質 問

○議長（腰川日出夫君） それでは、これより議事日程に基づき議事に入ります。

議事日程第1「一般質問」を行います。

昨日からの一般質問を続行します。

本日は質問順位6番から10番までとします。

最初に、佐藤栄作議員の一般質問を許します。佐藤栄作議員。

（6番 佐藤栄作君登壇）

○6番（佐藤栄作君） おはようございます。公明党の佐藤栄作でございます。

先般の台風26号により、茂原地域は大きな被害をこうむりました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。一日でも早い復旧を祈っております。

また、市長をはじめ、市職員並びに災害に携わった皆様の御苦勞と心勞に対して心より御礼申し上げます。

それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきますので、何とぞ明確な答弁をよろしくお願い申し上げます。

1項目めに、農業振興について。

初めに、耕作放棄地の有効活用について質問させていただきます。農家の平均年齢は約66歳であります。耕作放棄地は39.6万ヘクタールと埼玉県や滋賀県の面積と同じ規模で、20年前と比べ倍増しています。これらの担い手が利用する農地面積の割合は、農地全体の5割に過ぎません。今後、攻めの農林水産業を農地集積の加速化により政府は10年間で8割にすることを目指しております。本市における取り組みと課題についてお伺いいたします。

続いて、「ねぎぼうず」をさらに発展的にするための提案について質問させていただきます。「ねぎぼうず」がより一層の発展を遂げるために、現在の売り上げを押し上げるための現状の課題と今後の対策についてどのように考えているかお伺いいたします。

さらに、地産地消について質問させていただきます。地域の活性化を進める上で、農家の担い手のやる気を引き出すことが重要です。そこで初めに、豊岡・萱場地域にあっては、私が歩いたところ、モダンな農家が多く点在し、都会の人が興味を抱く農家の庭先拝見といった催しで多くの観光客を引きつけて、庭先で家庭自慢のおもてなしに、漬け物等の食味体験による地元食材をPRする場としてはどうかお伺いします。

2項目めに、交通ネットワークについて。

初めに、市民バスの実証運行状況について質問させていただきます。12年目を迎えた市民バスは、「モバス」の愛称で10月より毎日運行となりましたが、今まで12年間の状況と実証運行状況についてお伺いいたします。

続いて、デマンド交通により西部地域の実証運行状況について質問させていただきます。君津市によると、昨年3月末時点で、いすみ市、酒々井町など13市町がデマンド交通を運行していて、本市は「ふれあい」の愛称で新しく交通過疎対策として10月より実証運行のスタートをしたばかりですが、現況と今後の課題についてお伺いいたします。

3項目めとして、市民の自立支援について。

初めに、家庭における自立支援について質問させていただきます。既に本市においては調理教室という健康管理課主催による食生活改善協議会を立ち上げています。この一例として、クッキングパパ教室を開催していますが、具体的な内容についてお伺いいたします。

さらに、セラピードッグについて質問させていただきます。セラピードッグは、動物愛護センターがガス室で殺される寸前の捨て犬を国際セラピードッグ協会が引き取り、2年半かけて高度な訓練を施すことによって育て上げられております。日本初となったセラピードッグのチロリが寄り添った患者はアルツハイマー病を患い、家族の名前もわからず、失語症で歩行もできない高齢者でありました。最初は無反応だった患者は、チロリとのふれあいを重ねるうちに言葉が出て、車椅子をおりて歩行ができるようになって、大きな笑顔が戻りました。やがて家族の名前も思い出して、4年半に及ぶ人と犬の深い絆が奇跡を生みました。また、高齢者の自殺を防ぐため、東北大震災の仮設住宅に派遣して、年間1万2000人をケアしています。こうした活動が世界から注目される一方、廃棄物のように犬を捨てる飼い主が後を絶たないのも現実であり、8割程度が殺処分されています。2011年度では、本市において自治体の犬猫引き取

りは何匹で、そのうち何割が殺処分されているのかお伺いたします。

4項目めに、地域の諸問題について。

初めに、空き家対策について質問させていただきます。総務省の最新住宅土地統計調査2008年によると、全国の空き家はこの20年間で倍増し、住宅全体の約13%となる約757万戸に上り、年々増加傾向にあります。研究者は、このうち放置された空き家が約35%に上るとしております。各地で空き家が急増し、社会問題になっています。新茂原のゆたか団地入り口反対の国道128号線を挟んだところには、鉄骨の建屋が今にも崩れかかっています。このため、長尾地域住民からの要望を現地で受けて感じることは、実効性を求めています。そこで、老朽化が進んでいる空き家で倒壊の危険性のあるものは何件あるのかお伺いたします。

続いて、生活資源について、初めにICTについて質問させていただきます。総務省ICT情報通信技術生活資源対策会議において、世界の総人口は2050年に90億人に増加、新興国・途上国の経済成長等を背景に、私たちの資源消費による問題は一次エネルギー消費量20年で1.4倍に急増、鉱物使用量40年で埋蔵量を超過、水不足人口45年で5倍以上の深刻化、廃棄物発生量15年で1.5倍の急増等、資源をめぐるさまざまな問題に直面しております。そこで、ICTを徹底的に活用することでその解決に資する方策等を検討するとともに、日本のICT企業の国際競争力の強化を通じて日本再生に寄与することが求められております。そこで、本市においてもICT活用による書類の電子化に寄与すべきと思いますが、お伺いたします。

次に、センサーでインフラ管理について質問させていただきます。高度経済成長期に集中整備された橋、トンネル、下水道などの社会インフラは、2010年以降、大きな改修の時期を迎えております。老朽化による重大事故の発生や災害時の被害拡大の懸念から、安全確保のための点検補修が求められております。そこで、今回の水害による本納地域の赤目川B調節池にある手動ポンプをセンサー付き自動ポンプにしてはどうか、お考えをお伺いたします。

さらに、県道について、これらについては9月1日、公明党の県会議員に自ら現場で説明依頼してありますが、さらなる進展のため伺います。初めに、新小轡の田中歯科医院前より東郷橋付近まで深いU字溝設置について質問させていただきます。これまで内水対策として平成22年度まで延長されてきた事業ですが、突然打ち切りとなったものを幾度か足を運んで現場の生の声を聞いて、市民の方から直接現場説明していただいて、また、復活させるための今後の見通しについてお伺いたします。

続いて、県道カインズ前交差点の拡幅及び右折レーンの設置について質問させていただきます。県道茂原環状線の腰当交差点から跨線橋までの約150メートル区間の渋滞解消のために拡

幅及び右折レーンの設置をすべきと思うが、どう考えるかお伺いいたします。

また、市道について質問させていただきます。本納の本町通り、コンドル産業駐車場から北へ約200メートルまでの区間の舗装で、重量のある車が通ると異常な音とともに地響きを感じるところです。現場を見たところ、地盤の緩みとともに心配される惨事を招かないための対策が求められます。そこで、市としての対策をお伺いいたします。

以上で、まず1回目の質問を終わらせていただきます。御答弁をよろしくお願ひいたします。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの佐藤栄作議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 佐藤栄作議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、農業振興の中で、耕作放棄地の有効活用についての取り組みと課題についてであります。本市においても多くの耕作放棄地が発生しております。対応が急務であると認識しております。本市の取り組みといたしましては、茂原市地域農業再生協議会が所有する大型の草刈り機4台の貸し出しを行い、耕作放棄地の管理を行っておるところであります。また、国、県の交付金を活用した耕作放棄地の再生作業も実施しておりますが、なかなか進まないのが現状であります。今後も耕作放棄地の解消に向けてこれらの制度を活用し、農業委員会と連携を図り改善に向けた指導を行うとともに、農地の貸し借り、売買の仲介を行う農地銀行や、国が進めている農地中間管理機構（仮称）などを有効に活用して耕作放棄地の解消に努めてまいりたいと思っております。

次に、農家の庭先を地元食材をPRする場としてはどうかとの御質問ですが、新鮮で安全なおいしい農産物を生産者が責任を持って供給している場所が農産物直売所であります。生産者自らが加工販売に取り組み、付加価値をつけることで生産者の所得向上や地元食材のPRにつながり、地域の活性化等が図られております。地元食材を使った漬物等は「旬の里 ねぎぼうず」におきまして既に販売がされておりますので、さらに地元食材をPRするために、まずは店内での食味体験や試食ができるように働きかけてまいりたいと考えております。議員おっしゃるとおり、どれくらいの農家の方々が庭先を提供していただけるか調査して、地元食材のPRが継続してできるか検討してみたいと思っております。毎日のことですので、大変な努力が必要になってきますけれども、果たしてどれくらいの農家の方たちが協力してくれるのかなど、こういう思いでございます。

次に、地域の諸問題の中で、生活資源について。本市においてICT活用による書類の電子

化を推進すべきと思いますが、考えを伺いますということなのですが、ICT活用による書類の電子化につきましては、本市におきましても重要な問題と認識し、推進すべきと考えております。現在は給与明細の庁内情報システムによる配信や課税台帳の電子化などを行っており、今後も推進に努めてまいりたいと思っております。

私からは以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

（経済環境部長 豊田正斗君登壇）

○経済環境部長（豊田正斗君） 経済環境部所管にかかわります御質問の中で、「ねぎぼうず」をさらに発展的にするための提案について御答弁を申し上げます。農産物直売所につきましては、消費者が新鮮で安全な食材を求めていることから、平成16年3月、「旬の里 ねぎぼうず」がオープンし、多くの来店者の支持を受け、地産地消に貢献しております。平成20年度には、道路北側に花、植木部門の増設を行い、好評をいただいております。しかしながら、全盛期に比べ徐々に売り上げが減少しているのが現状であります。その要因といたしましては、他の直売所との価格競争や店舗数の増加に伴う消費者の分散があるのではないかと考えられます。今後は集客力を確保することが重要となっておりますので、低農薬、低化学肥料によるエコ農産物の拡大や加工品の開発など、新たな販路の開拓が必要であると考えております。市といたしましても、JA長生や長生農業事務所などの関係機関と連携を図りながら、「ねぎぼうず」の取り組みに対しまして積極的に協力していきたいと考えております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

（市民部長 森川浩一君登壇）

○市民部長（森川浩一君） 市民部所管にかかわります御質問に御答弁申し上げます。

初めに、交通ネットワークについての市民バスの実証運行状況について、今まで12年間の状況と実証運行後の状況及び課題についての御質問でございます。市民バス「モバス」は、平成13年10月より運行を開始し、当初は年々利用者が増加し、平成16年度には3万2870人となりましたが、この年を境に減少へ転じ、平成18年度は利用料金を100円から200円に改定した影響も加わり、ピーク時の約3分の2となりました。この年以降は緩やかな減少を続け、昨年度の利用者数は1万5706人とピーク時の約半数となっております。このような状況を受けまして、昨年度、茂原市地域公共交通計画を策定し、これに基づき、市民バスの運行と運行日の変更を行ったところでございます。今年度前半の各月の平均と本年10月の実績数を単純比較いたしますと、利用者数は約9%の減となっております。実証運行開始から2か月が過ぎ、さらなる利用

者拡大が課題となりますが、広報等を通じ、今後も積極的に市民の皆様にご利用の呼びかけをしてまいりたいと考えております。

次に、デマンド交通の現況と今後の課題についての御質問でございます。デマンド交通「ふれあい」の10月31日現在の利用登録者数は195人で、10月の利用実績数は49件となっております。利用の曜日別では、金曜日が時間帯別では午前中の利用が多くなっております。目的地といたしましては、長生病院が約56%、公共施設が約15%、本納駅や商業施設がそれぞれ11%となっております。利用者数は1日平均約4.5人で、茂原市地域公共交通計画における需要想定人数は下回っている状況でございます。市民バスと同様、利用率を高めることが今後の課題でありまして、よりよいサービスの提供を検討するとともに、広報や地域への説明会等を通じまして積極的に市民の皆様にご利用を呼びかけてまいりたいというふうに考えております。

次に、市民の自立支援について、家庭における自立支援のクッキングパパ教室の具体的な内容についてとの御質問でございます。クッキングパパ教室は、茂原市男女共同参画計画の主要課題の1つであります男性の家庭参画を促す講座等に位置づけられ、栄養面からの健康管理と家庭参画ができるよう食生活改善協議会が支援する料理教室でございます。保健センターでは、年1回の開催で参加者はおおむね20人程度で、年齢は60歳代から70歳代が中心となっております。参加の理由は、独居のため料理を覚えレパートリーを増やしたい、料理を覚えることで何か家庭の役に立ちたいなど、それぞれ異なっております。教室の内容といたしましては、健康づくりに係わる講話を約30分程度行った後、調理実習を実施いたします。でき上がった料理を参加者全員で会食いたしまして、意見交換をしたり、お互いに評価をしたり、料理技術と男女共同参画の意識の向上に努めている状況でございます。

次に、セラピードッグの本市における犬猫の引き取りは何匹で、そのうち何割が殺処分されているかとの御質問ですが、長生保健所によりますと、長生保健所管内の平成24年度の犬猫の捕獲、引き取り等の数は、犬で56件、猫で95件となっており、同保健所では保護動物の一時預かり業務のみで、殺処分については他の施設で一括して行われているため、茂原市の犬猫の殺処分の数は把握していないということでございます。

なお、平成24年度の県内の犬の引き取り件数は2885件で、そのうち殺処分件数は1376件で、全体の47.7%、また、猫の引き取りは3997件で、殺処分数は3364件で、全体の84.2%を占めている状況でございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

（都市建設部長 鳩川文夫君登壇）

○都市建設部長（鳩川文夫君） 都市建設部所管にかかわります御質問にお答え申し上げます。

初めに、老朽化が進んでいる空き家で倒壊の危険性のあるものは何件あるのかとの御質問ですが、倒壊の危険性のある空き家につきましては、市民からの情報提供や苦情等によりその都度対応してまいりましたが、その実数や実態についての把握はできていない状況でございました。このことから、現在、緊急雇用創出事業を活用いたしまして、保安上危険な建築物等実態調査業務を委託し調査を行っておりますので、本業務完了後には、その実数についても把握できることとなります。

次に、赤目川B調節池のポンプを自動にしてはどうかとのことですが、B調節池につきましては、大雨時に乗川から赤目川へ流れ込む水量を調節し、赤目川への負担を軽減することを目的に設置されたものであります。このことから、赤目川の水位が高い状態でB調節池の水を強制排水しますと赤目川に過度の負担をかけることとなりますので、現状ではセンサー付き自動ポンプの設置は難しいとのこととございます。

次に、新小轡地先の県道茂原環状線の排水整備の今後の見通しはとのこととございますが、当該箇所につきましては、平成22年度以降中断されておりましたが、長生土木事務所に確認したところ、来年度事業として予算の要求を行ったと聞いております。

次に、県道茂原環状線の腰当交差点に右折レーンを設置すべきと思うがとのお尋ねですが、こちらも県に確認しましたところ、国道より西側の道路改良が完了しましたので、今年度は跨線橋側の舗装修繕工事を予定しておるとのこととあり、この工事にあわせて右折レーンを設置するとのこととございます。

次に、本納の本町通りに地盤の緩みがあるのではとの御質問ですが、現地を確認しましたところ、部分的な舗装のひび割れや弛みは確認されましたが、重大な事故につながる陥没などの兆候は見受けられませんでした。

なお、振動等につきましては、ひび割れや弛みが起因しているものと思われますので、さらに損傷が進行した場合には補修等を行い、対応してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 再質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 農業振興について、耕作放棄地の有効活用について、これからは一問一答方式で再質問させていただきます。初めに、本市の農地関係データとして、経営耕地、耕作放棄地の面積はそれぞれ何ヘクタールなのか、また、農地集積率及び遊休農地の面積は何ヘクタールなのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 2010年世界農林業センサスによりますと、本市の経営耕地面積は1908.3ヘクタール、耕作放棄地は594.8ヘクタールとなっております。また、農地集積率につきましては、市内の農地面積に対して貸し借りなど利用権設定をした面積割合では10.2%でございます。遊休農地につきましては448.1ヘクタールとなっております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 地域の手で農地・農業用水や地域環境を守る取り組みで新たな農地・水保全管理支払交付金を現在活用している自治体数及び活動内容をお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 農地・水保全管理支払交付金は、地域共同による農地・農業用水等の資源の保全管理と農村環境の保全向上の取り組みに対し支援を行うものであります。自治体数につきましては、平成24年度実績で、県内54市町村のうち41市町村で実施しております。

活動内容といたしましては、遊休農地発生防止のための保全管理をはじめ、農道、水路、ため池等の草刈りや泥上げ、施設の適正管理及び異常気象時などの対応を行っております。

また、農村環境の保全活動として、花の植栽なども行っております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 続いて、「ねぎぼうず」をさらに発展的にするための提案について再質問いたします。これまで生産者が野菜等を直売所に持ってきた際に、1日売れなかったら、内房の4市、農家女性たちの農産物直売所「たんぼはうす」のように野菜を引き取り、併設したレストランで家庭的な手料理として提供する、あるいはこれを惣菜として加工・販売する考えはあるのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 豊岡地域におきましては、地元農産物を使った農家レストランがございます。「ねぎぼうず」での併設につきましては、建物の建ぺい率などの関係から、現在の場所での増設はできない状況でございます。惣菜につきましては、旬の食材を生かした商品開発を「ねぎぼうず」の加工部会で行っており、固定客の確保に努めておるところでございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 地産地消について再質問いたします。初めに、千葉県はサツマイモ全

国1位の生産地ではありますが、新品種ベにはるかの壺焼き芋を茂原の売り物や生菓子の新メニューとしたり、これを発信する女性のシニア野菜ソムリエの普及に力を入れてはどうかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 千葉県ではサツマイモや米粉の活用を促進し、その魅力を発信するために県内の菓子店等において、千葉のスイーツフェア2013を11月1日から12月1日まで開催いたしました。茂原市におきましては5店舗が参加いたしまして、サツマイモのあやこまちを使ったオレンジ芋のパウンドケーキなど、工夫を凝らしたものを出店、販売しております。また、茂原の名物として、七夕の郷・茂原謹製が推奨されておりますので、今後も地産地消の観点から、できるだけ地元食材を使用するよう働きかけてまいりたいと考えております。

なお、野菜や果物の品種や特徴、選び方や保存方法、調理方法など熟知しているシニア野菜ソムリエにつきましては、地元の旬の食材を使った料理の提案などにより地産地消を促進し、生産者と生活者をつなげる架け橋になると考えられますので、その育成及び普及に関しまして、活用方法とともに検討してまいりたいと考えております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） イチジクはアラビア南部原産で、日本では江戸時代に伝来しました。種から3年ほどで実をつけるようになります。新治、下太田の営農組合ではイチジクが8月から10月ころまで販売されています。今後、イチジクカレーや羊羹などのオリジナルレシピを市民が商品開発して市が指導にあたる考えはあるのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 地元農産物を使いましたレシピ開発は、地産地消により食料自給率のアップにもつながりますので、市といたしましては、健康づくりの案内役として活躍いただいております食生活改善推進員の方や麦の会、あるいはアグリライフ長生などの方々に協力をいただきながら、地元食材を使った新しいレシピ開発を行いまして、それを広報等で引き続き紹介していきたいと考えております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 次に、交通ネットワークについて、市民バスの実証運行状況について再質問いたします。東部、南部、北部、各コース別の最近5年間の1便平均乗車数と1日平均乗車数を今回の毎日運行と比較してどうなのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 過去5年間の平均の乗車数でございますけれども、東部コースは1便6.7人、1日47.2人です。南部コースは1便6.2人、1日43.3人です。北部コースは1便3.8人、1日26.5人となっております。

なお、本年10月の1か月の平均乗車数でございますけれども、東部コースは1便3.2人、1日19.5人、南部コースは1便5.8人、1日23.3人、北部コースは1便1.7人、1日6.9人という状況でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 最近5年間のデータから、東部コースは1便平均7.0人及び1日乗車平均は49.14人と一番利用率の高かった便数が1日1往復半と他地域の2往復より減り、今までより不便になりました。早急な対処をお願いしたく、どのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 確かに議員おっしゃるとおり、隔日運行を毎日運行にしたことに伴いまして、豊岡方面を回る北部コースと東部コースを1台の市民バスで運行している状況のため、このような状況があると認識しております。現在、北部コースの始発を東部コースの始発とすればこの問題は解決につながると考えてはいるんですけれども、北部コースの利便性を欠くことにもつながってしまうというようなことでございますので、これらの状況を踏まえまして、計画全体の内容につきましても、今後の実績等に基づきまして、目標の達成状況や利用状況などを評価し、必要に応じて見直しを今後計画ではすると。PDCAサイクルによる検証を実施し、改善を図ってまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 次に、デマンド交通による西部地域の実証運行状況について再質問いたします。予約乗合型のデマンドタクシーの実証運転を始めたわけですが、1日当たりの予約目標人数と実利用者数及びその性別と年代構成についてお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 茂原市地域公共交通計画におきまして、利用者の想定人数を1日平均18人というふうに想定しております。

なお、10月の利用者数につきましては、1日平均4.5人ということで、まだ想定人数は及ばないという状況でございます。この1か月間の利用者49人のうち17人が男性です。32人が女性

となっております。全て60歳以上の方で、そのうち70歳代の方が約6割を占めている状況でございます。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） これは要望ですが、里帰りや観光及び茂原市に事前登録のない人のために、料金は少し高めの設定で提供してはどうか提案いたします。

質問です。本市が年間幾らで民間事業者に委託しているのか、そして、市が負担するのは幾らくらいなのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 民間事業者への委託料につきましては、10月から翌年3月まで、とりあえず半年間なんですけれども、これが127万4000円となっております。本年度の市の負担は、この金額から運賃収入を差し引いた金額となりますけれども、委託料から運賃収入を差し引いた金額の2分の1が平成26年度に国から補助される予定となっております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 次に、市民の自立支援について、家庭における自立支援について再質問いたします。初めに、本市において健康づくりの案内役として食を通して活動している人は何人で、また、食生活改善協議会としての料理教室は幾つあって、どのような活動をしているのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 食や栄養指導を通しまして市民の健康づくりの推進を目的に活動しております、先ほど申しました食生活改善協議会というものがございます。この委員さんが50人いらっしゃいます。また、食生活改善協議会としての料理教室は、学童クラブを対象といたしました食育活動教室、また親子を対象といたしました親子食育教室、また小学生を対象といたしました小学校食育教室、幼稚園保護者を対象といたしました小児生活病予防教室、さらには一般市民を対象といたしました健康づくり料理教室というようなことで、おおむね10種類程度の教室を開催いたしまして、参加者の年齢に沿いました栄養指導など食生活の改善の普及に努めている状況でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 市の広報に掲載されたレシピ等をまとめたものはあるのか。また、今後、これを編集して発行する考えはあるのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 食生活改善協議会では、平成20年4月に設立20周年を記念いたしました。今まで普及推進してきました献立をまとめた健康レシピ集を発行している状況です。また、各種料理教室で普及しております献立や栄養ミニ知識を簡単今夜のおかずというようなことで年5回ほど発行しております。公民館や福祉センターなどに配布し、多くの市民に活用していただいております。今後も、新しいメニューも引き続き発行していく予定でございます。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） セラピードッグについて再質問させていただきます。日本でもAAT動物介在療法を取り入れる施設が増えつつあります。一方、犬の殺処分は年間10万頭で、これらの諸問題を同時解決するための社会システムを提案しています。殺処分される犬の中から、AATをデイサービスの一貫としてアニマルセラピーの通院で回数減少効果が発現し、医療費が年間1350億円以上の削減が見込まれますが、一方、レトリバーが必要という現実もあります。本市にあってどのような考えがあるのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 御提案のドッグセラピーにつきましては、病院とか高齢者福祉施設等で導入している事例があります。患者さん等に癒しの効果があることは承知しております。医療費の削減の観点からのお話もございましたけれども、施設設置者が患者等の個々の健康状況や医療効果等を考慮しまして導入すべきものではないかというように考えておりますので、今のところ市が事業として取り入れることは考えてございません。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 地域の諸問題について、空き家対策について再質問いたします。空き家は近隣住民にとって深刻な問題であります。県内でも千葉市、流山市、野田市をはじめ、11の自治体で空き家条例を制定し、独自の取り組みを行っております。本市において制定の考えがあるのか、考えをお伺いします。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 空き家への対策につきましては、防犯や生活環境など多方面にわたることから、現在、関係部署において窓口のあり方や体制について協議をしておるところでございます。

なお、条例の制定につきましては、国の動向を注視するとともに、先進自治体について調査研究してまいりたいと考えております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 空き家を撤去し更地になると固定資産税の負担が重くなってしまいます。そこで、税の軽減などを含めた支援策についての考えがあるのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 住宅政策の観点から、地方税法におきまして住宅用地に対する固定資産税の課税標準額の特例が設けられており、専ら人の居住の用に供する家屋の敷地については税の軽減が図られております。このため家屋が撤去された場合には、この特例が適用されないこととなります。

なお、本件につきましては、現在、自民党の議員立法による空き家対策法案において論点となっておりますことから、今後も国の動向を注視してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 生活資源について、センサーでインフラ管理について再質問いたします。これは要望です。本納地域の河川の冠水で、朝9時ごろ、本納駅前及び本納中学付近で水がさっと引いたと言われております。これはポンプアップをこれより少し手前で手動操作したためと思われます。今後、水門撤去による効果及びこまめのポンプ操作をお願いいたします。

質問します。赤目川B調節池に設置されている水位計2カ所、赤目川と乗川は超音波水位計なのか、また、ポンプは先行待機型ポンプなのか、さらに水位計のチャート記録は遠隔地でも確認できるようになっていると思うが、どこで確認しているのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 長生土木事務所に確認しましたところ、赤目川B調節池に設置されております赤目川及び乗川の水位計は超音波式で、排水ポンプにつきましてはあらかじめ流入に備え稼働させておく先行待機型ではなく、渦巻き式水中ポンプということでございます。また、水位計のチャート記録につきましては、過去10日分のデータが蓄積され、確認できるとのことでございます。また、リアルタイムでの水位状況につきましては、電話回線で把握できるようになっている状況とのことでございます。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 渦巻き方式ということで今発言がありましたけれども、今後、待機型ポンプについては、エアが入っても大丈夫なポンプでございますので、御検討のほどよろしくお願ひしたいと思います。

続いて、県道について質問させていただきます。新小轡地先の県道茂原環状線の排水整備について再質問いたします。来年度事業の予算化に伴って、今後3か年計画なのか、それとも5か年計画なのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 3か年程度を予定しているということでございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。佐藤栄作議員。

○6番（佐藤栄作君） 以上であります。ありがとうございました。

○議長（腰川日出夫君） 以上で佐藤栄作議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午前10時48分 休憩

☆ ☆

午前11時00分 再開

○議長（腰川日出夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、金坂道人議員の一般質問を許します。金坂道人議員。

（10番 金坂道人君登壇）

○10番（金坂道人君） もばら21の金坂道人です。

昨日の一般質問と重複をするかもしれませんが、私どもの住んでいる地域が茂原市で一番、台風26号による被害を受けましたので、確認の意味を含めて通告に従い、一般質問させていただきます。

茂原市は、10月15日から16日の朝方にかけて襲来した台風26号により大きな被害を受けました。災害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。私も5時50分のエリアメールを見てすぐ避難所であります早野中に行きました。高齢者の方々から小さなお子さんまで約105名の方々が避難をしておりました。市の担当職員の方々も大変手際よく対応をしておりました。また、早野中の職員の方々もストーブをたいたり、お湯を沸かしてくれたりしてくれました。朝から温かいものを食べることができてよかったとの声も聞かれ、心ある対応に深く感謝を申し上げます。また、五郷地域の消防団の方々も朝早くから交通整理や救済活動を行っておりました。それにもかかわらず、主要道路で一生懸命交通整理をしている若い消防団に心ない人が罵声を浴びせ、指示に従わない車があると市民の方から直接私に知らせが入り、駆けつけてみますと、指示に従わなかった数台の車が道路で水没しておりました。今回の災害は幸いにも人的な被害はなく、安堵いたしました。過去に3回の水害を受け、平成元年、8年

の災害では激甚災害の指定を受け、一宮川の堤防の嵩上げ、河口の拡幅、五郷地域の墨田、阿久川中流に調整池を設置しました。中の島や下永吉地域が被害を受けなかったこともある程度効果があったと考えられます。しかし、3回も水害を受けた私の住んでいる五郷地区の八幡原、緑町、早野、長清水、早野明光や対岸の八千代においては今回も大変な被害を受けました。住民の方々の中には、怒りをあらわにする者、あきらめた表情で話す人等、さまざまでありました。市民の生命と身体と財産は何としても守らなければなりません。早野中学校の避難所には車で避難された方も多く、車の駐車場としてグラウンドの使用ができず、校門から校舎の出入り口付近に入り乱れ、駐車をしておりました。災害時の駐車スペースを確保するためにも、今後、早野中のグラウンドの整備が必要であると思いますが、お考えをお聞かせください。

茂原市の管理である準用河川の梅田川も、今回の台風26号の影響により堤防を越流し、氾濫をしました。上流、中流には水田があり調整池の役割も果たし雨水をためておりましたが、下流は一宮川と合流しているために、常に被害を受けております。下流域は地盤も特に低く、平時でも、時間雨量によっては県道茂原大多喜線まで浸水をいたします。今回の台風で他の地域では16日の午後4時の時点で水が引きました。梅田川下流の早野観音前では、午後8時になっても引かず、最終的に引いたのは午後10時であったと聞いております。一宮川の合流点にぜひ排水機場を設置していただきたいと強く望みます。災害を受けた方々は本当に気の毒であります。一部であります。被災地からの引っ越しを考えて住宅を探している方もおられると聞いております。しかし、災害に遭った持ち家を売ろうとしても、過去の事実について説明責任が生じる場合もあり、大変な資産価値の低下を招いたこととなります。本年においても固定資産税減免措置をするとされておりますが、平成26年度以降の家屋の評価の見直しをどう考えておられるのかお聞きをいたします。

一宮川の管理は県管理であります。今後、県による災害の検証が行われると思います。河床の堆砂、法面の堆積土、さらに草木が生い茂り、川の断面を狭くし、流量、流速においても本来の川の持っている機能を発揮していないのではないかと思います。一宮川の河床の浚渫、法面の堆積土の撤去及び草木の除去等、適切な管理を県に求める必要があると思いますが、お聞きしたいと思います。

次に、観光行政です。

東日本大震災の影響で来客数が減少傾向にありましたが、今回の茂原七夕まつりでは、飾りも多少増え、来客数も従来に戻ってまいりました。来年度は七夕まつり60周年記念であります。祭りに向けて特別にどのような取り組みを考えておられるのかお聞きしたいと思います。

茂原公園の弁天湖周囲の桜の木の整備計画について、過去、定例会では何度となく私どもの会派の鈴木議員とともに質問をしてまいりました。整備計画の進捗状況をお聞かせください。

次に、茂原市の愛唱歌の普及についてであります。今年7月、市民会館で多くの市民の皆様のお参加のもと盛況に披露されました。本来であれば、愛唱歌は市民の皆さんに公募し、検討委員会を開き、選定していく手順を踏むことと思います。市民の有志の皆さんの御厚意で茂原市の良さを市民、また市外の方々にもっとわかってもらおうとの思いから作っていただいたと考えております。歌詞を読むと、茂原市の四季の状況がよく表現されていると思います。せっかくの御厚意で作っていただいた作品ですので、今後の普及活動の方針次第で茂原市の愛唱歌として市民の皆さんに認定されると思います。お考えをお聞きしたいと思います。

学校施設について質問をいたします。

これは地域の早野中と五郷小についてだけお聞きします。学校の耐震化は平成27年度末に完了するとお聞きしておりますが、五郷小学校と早野中学校の進捗状況についてお聞きしたいと思います。

私が議員になって初めての一般質問は、五郷小学校のトイレのにおいと改修の問題についてお聞きしたと記憶しております。においの状況は御努力をいただき大分改善されたと聞いておりますが、校舎の管理棟には建設以来、トイレの改修が行われず、いまだ貯水タンクが頭上にあるタイプのトイレとなっております。万が一、地震が来たときに、老朽化しているために落下の可能性もあるかもしれません。安全確認はできていると思いますが、トイレの改修は必要だと思いますので、お考えをお聞かせください。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの金坂道人議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 金坂道人議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、台風26号の災害について、一宮川の適切な管理の県への要請や調節池の増設など今後の対応についての御質問でございますが、昨日も申し上げましたけれども、今回の台風26号で災害に見舞われました市民の皆様方には、心からお見舞いを申し上げる次第であります。議員御指摘のとおり、昨日も申し上げましたけれども、平成元年、平成8年と激甚対応で対策を打ったと、こういう話でございますが、私どももそれにかかなり期待をして、二度とこういう水害が起きないと思っておりました矢先の水害でございます、ただただびっくりしたところでご

ございます。ですが、次はあつてはいけないということで、きのうもお話ししたとおり、県あるいは国のほうには適切な検証と、なおかつスピーディな対応をとるようにと、こういう要請を強くしているところであります。県では、今回の台風26号による水害を受けまして、今年度は阿久川合流点から日進橋の間の右岸側約800メートルの堆積土の撤去を行い、平成26年度も引き続き国道409号の砂田橋までの約4.2キロについて撤去を行ってまいりたいとのことでございます。また、河床の浚渫や調節池の増設の関係でございますが、現在、浸水の実態、雨の降り方、地盤沈下の検証、流域内の開発状況等、浸水発生の要因の分析を行っており、今年度末をめどに抜本的な対策を取りまとめ、千葉県設置の一宮川流域委員会に諮り、対策を実施する運びとなります。この対策の中で、一宮川上流部の長柄町や長南町に調節池の設置が必要となった場合には、本市といたしましても調節池の設置に向けて協力をお願いを行ってまいりたいと考えております。

次に、観光行政の中で、来年度の第60回茂原七夕まつりに向けての特別な取り組みについてでございますが、七夕まつりは本市にとって大きな観光資源の1つと捉えており、圏央道の開通によりアクセスが格段に向上したことから、来年度はさらに多くの来場者が見込まれるものと考えております。新たな事業展開といたしましては、前回好評でありました市民参加による七夕竹飾りを本年以上に増設し、見て楽しめる七夕まつりにしてまいりたいと考えております。また、本市のマスコットキャラクターでありますモバリんの歌を今後募集し、60回の記念開催にあわせた歌の発表と、モバリンダンスのお披露目により七夕まつりを盛り上げていきたいと考えております。さらに、七夕まつり期間の前に実施するイベントでは、若者が集える場として、本年開催いたしました、大変好評を博しました街コンの開催や、本市の特徴を生かした新たなイベントを考えてまいります。今後も七夕まつり実行委員会と協議し、来場者が来てよかった、また、参加してよかったと思えるおもてなしの七夕まつりにするよう、さまざまな工夫をしてまいりたいと思っております。

次に、茂原市の愛唱歌の今後の普及活動についてであります。茂原市の愛唱歌につきましては、民間の方々の歌の持つ力で茂原市を明るく元気にしたい、こういう思いから組織された「故郷に愛唱歌を」制作実行委員会の御尽力により誕生いたしました。茂原七夕まつりのオープニングセレモニーにおいて、制作実行委員会より本市へ譲渡していただいたところでございます。普及活動につきましては、今後、教育委員会と協議し、合唱コンクールや学校行事など、さまざまな機会を捉えて愛唱歌を歌ってもらえるようにしていきたいと考えております。

また、防災行政無線により朝、夕流しているミュージックチャイムに愛唱歌を活用できるよ

う、現在庁内において検討しているところでございます。今後、市民が気軽に口ずさみ、長く歌い継がれていくようにさまざまな観点から検討してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 総務部長 麻生英樹君。

（総務部長 麻生英樹君登壇）

○総務部長（麻生英樹君） 総務部所管の御質問に答弁をさせていただきます。

台風26号による水害関係で、避難所の駐車スペースの確保についてでございますけれども、避難所へ避難する際は、原則として徒歩でお願いをしているところでございます。避難所は小中学校や公民館など公共施設を指定しております。多くの方が車で避難されますと、駐車可能なスペースには限りがございますので、できる限り徒歩による避難をお願いしたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 企画財政部長 三浦幸二君。

（企画財政部長 三浦幸二君登壇）

○企画財政部長（三浦幸二君） 企画財政部所管にかかわります質問にお答えいたします。

固定資産税の減免について、平成26年度以降の家屋の評価額の見直しについての御質問ですが、今回の災害に対する固定資産税の減免につきましては、価格の10分の2以上の価値を減じたときは、納期未到来分の税額について10分の4以上の減免をいたします。平成26年度は評価額の据え置き年度にあたりますが、天災等により当該家屋の価値に大幅な減を来した場合に限り、損耗減点補正率を適用し評価額を算出することができるとされております。今回のケースにつきましては、ほとんどが床上浸水であり、家屋の価値においては大幅な減とならないため、家屋の評価額の見直しは考えておりません。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 嶋川文夫君。

（都市建設部長 嶋川文夫君登壇）

○都市建設部長（嶋川文夫君） 都市建設部所管にかかわります御質問にお答え申し上げます。

初めに、一宮川との合流点に排水機場の設置ができないかとの御質問ですが、今回の台風26号の水害では、梅田川流域につきましても大きな被害が発生している状況となっており、11月26日に専門家である国土交通省国土技術政策総合研究所、国土交通省、千葉県、茂原市の担当によりまして現地を確認後、一宮川浸水対策の検討が開催されたところであり、今後、浸水発生要因分析とともに今年度末をめどに対策案が取りまとめられることから、この排水機場にかかわります内水対策につきましても、あわせて検討を行う予定となっております。

次に、弁天湖周りの桜の整備計画について進捗状況はとのことですが、茂原公園は桜の名所100選に選ばれ、開花時期になりますと桜まつりが開催され、多くの観光客が訪れ、にぎわいを見せております。公園内には桜が約2850本ありますが、その中で弁天湖周辺の100本につきまして、今年の8月、NPO法人樹の生命を守る会に健康度調査を委託した結果、良好が20本、要治療が58本、回復困難な桜が22本あるとの所見が出されたところでございます。

なお、治療が必要な桜につきましては、順次、腐食部分の除去や殺菌、殺虫剤の散布等を行い、樹勢の回復に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 教育長 古谷一雄君。

（教育長 古谷一雄君登壇）

○教育長（古谷一雄君） 教育関係の御質問にお答えをいたします。

初めに、五郷小学校と早野中学校の耐震化の進捗状況はという御質問にお答えをいたします。五郷小学校につきましては、普通教室棟2棟、普通特別教室棟1棟及び屋内運動場の耐震化が必要となっております。今後の予定としましては、平成26年度当初予算に工事費を予算計上し、年度内に工事契約を行い、平成27年度中に完成する予定でございます。

次に、早野中学校ですが、管理普通教室棟1棟の耐震化が必要となっております。予定としましては、今年度中に契約し、平成26年度中の完成を見込んでおります。

次に、五郷小学校の管理教室棟のトイレ改修についての考えはという御質問にお答えをいたします。五郷小学校のトイレにつきましては、普通教室棟、普通特別教室棟及び屋内運動場のトイレは、耐震化工事とあわせて改修を行う予定でございます。耐震工事を実施しない管理教室棟のトイレにつきましては、学校施設の耐震化が終了する平成28年度以降に計画的に実施していこうと考えておりますのでよろしく願いいたします。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 再質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 先ほど避難所への避難は徒歩が原則との答弁をいただきました。今回のような夜明けの台風の中、高齢者や子供連れの方は車での避難が多いと予想されますが、その対応はどのようにお考えなのかお聞かせをいただきたいと思っております。

○議長（腰川日出夫君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 先ほど申し上げましたとおり、できる限り徒歩による避難をお願いしたいと考えておりますけれども、御質問のとおり、高齢者や子供さんなど、やむを得ず車で避難する場合もあるかと思われま。したがって、今後は早めの避難準備情報の発令に努めてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 参考までにお伺いしたいんですけども、市内の中学校でいいですから、雨のときに車でグラウンドに入ることが可能な学校は何校あるのか教えていただきたいと思えます。

○議長（腰川日出夫君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 中学校で雨が降ってもグラウンドに車が入れる学校は、全面使用できる学校はありませんが、部分的に駐車可能な学校は3校あります。しかし、大雨のときは排水しきれずに水がたまってしまう学校もありますので、御理解いただきたいというふうに考えております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） これは要望になると思うんですけども、今回の災害では車が自宅の車庫で水没した方も大変多くございます。特に水害の場合は、水害を受けない安全な広い場所があれば、住民の方々も安心して避難場所として目指すんじゃないかと予想されますが、お考えをお聞きしたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） おっしゃるとおりだと思います。ただ、先ほど申し上げましたとおり、市の避難所として指定しております場所は、主として小中学校、また公共施設でございます。ですから、市民の方々が避難される場所と車の水没を防ぐための場所というのは別に考えていかざるを得ないと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） これは要望としたかったんですけども、お答えいただきまして、ありがとうございました。

避難準備体制の段階で、前もって車を高台に移動いたします。私ども早野地域、五郷地域には、緑町とか八幡原の地域には高台がありません。そのような場所があるのは早野中のグラウンドと私は思っています。今後、災害対策として車が入れるようなグラウンド整備をお願いしたいと思いますけれども、ぜひ御検討をお願いしたいと思います。これはあくまでも要望でございます。

次に、梅田川の排水について質問をさせていただきます。梅田川流域の排水で、一宮川浸水対策検討の場において県に検討をお願いしたとの答弁がありましたが、対策案を具体化し実施するには時間がかかると思えます。その点についてお聞きしたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 事業実施につきましては、今後対策が行われます一宮川整備計画と整合を図りながら進める必要があります。それと、多額な費用が想定されることなどから、時間を要するものと考えております。

なお、当面の対策としましては、堆積土の撤去ですとか、草木の除去を来年度から実施する予定で考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 大変時間がかかっては意味があるのかというふうに私も思いますけれども、排水整備の整った西谷川も市の管理の準用河川でございますけれども、あそこにはすばらしい排水機場があるんですけども、どのような事業で整備されたのかお聞きしたいなというふうに思います。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 西谷川につきましては、周辺地域の農地が湛水被害を受けておりましたので、農林事業である湛水防除事業渋谷地区として排水機場や排水路の整備を実施いたしました。

なお、本事業の完成によりまして、渋谷地区の湛水被害は軽減されております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 準用河川である西谷川と、梅田川も準用河川で茂原市の管理ですよ。その中で、梅田川においても一日も早く実現していくために、同じ事業での活用ができないかお聞きしたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 梅田川の周辺地域につきましても、既に農林事業の実施に向け、国、県と協議を実施しております。今後も事業採択に向けまして関係機関と協議し、湛水防除事業での対応を図ってまいりたいと考えております。

なお、今回の台風26号によりまして、この災害に対しまして市として緊急的に対応できる事業は本事業が最適であると考えておりますので、議員におかれましても、ぜひとも本事業の後押しをお願い申し上げます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） すばらしい事業があるということをお聞きしました。私も、今部長が言われたように、後押しをしてくれということですから、私もできる限り頑張りたいなと

いうふうに思っております。早急に排水問題は解決しなければならないので、豊田部長も頑張ってください。これは要望です。

次に、今後の対応についてでございますけれども、先日、茂原市の広報の臨時号に、森田知事が茂原市の被害状況を視察された際、市長は、一宮川の上流に調整池の増設を要望したと記事がありました。上流部の開発や耕地の整備が進み、雨水が一宮川を通して茂原市への到達時間が早くなっていることも考えられて、調整池が必要だというふうに考えられたと思うんですけれども、調整池の設置が必要になった場合ですけれども、きょう傍聴に長柄町の議員さんも見えておりますけれども、上流の自治体への働きかけを市として最大限努力していただきたいとお願いいたします。これは要望です。

先ほど答弁で、11月26日に第1回一宮川浸水対策検討の場が開かれたとお聞きしました。検討結果に基づいて対策が示されたと聞いておりますが、検討の場のメンバーはどのような方で構成されているのかお聞きします。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 国の治水対策の専門家でございます国土交通省国土技術政策総合研究所の河川研究室で主任研究官をされている方、国土交通省関東地方整備局の地域河川課長、千葉県の河川整備を統括しております千葉県河川整備課長、千葉県河川環境課長、一宮川の河川整備を担当しております千葉県長生土木事務所長、地元の茂原市役所から都市建設部長、私ですが、この6名で構成され、今後検討することとなっております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 構成メンバーの中に茂原市から建設部長の鳩川部長が入られているということでございますけれども、被災現場の状況は部長が一番よくわかっていらっしゃると思うんですよ。今後の災害対策の検討には期待しております。市民のために、特に被災者のために、ぜひよい解決策を導き出していただきたいと思います。頑張ってください。これは要望です。

次に、先ほど、今年度中、3月末に対策案が示されるということでございますけれども、その後の事業化までの日程ですけれども、その辺がわかればお聞きしたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 先日の検討会での中間報告があったわけですが、この中間報告に加えまして、さらなる情報の収集と分析を行いまして、これらの資料が整い次第、検討会が再度開催される予定となっておりますが、ここら辺のところについては資料の収集が今、業

者等に発注しなきゃいけないようなものもございまして、それらの資料が若干今手間取っているということで、本来、年内中に開催したかったんですが、若干遅れるような情報でございまして。それらをもとにしまして対策案が取りまとめられる予定となっております、これは先ほど答弁いたしました、対策案は今年度中に、3月いっぱいにとまとめると。この対策案をその後学識経験者や地元の自治体、地域住民の代表などの委員で組織されます一宮川流域委員会に諮りまして、その結果を踏まえ、対策が決定されます。その後、事業化が進められるという運びになります。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 来年度は第60回の七夕まつりということでございますけれども、来年度はオーストラリアのソルズベリー市からの交流団が七夕の時期に訪問すると聞いております。私も前回、交流団の一団としてオーストラリアに派遣されましたけれども、大変な歓迎を受けました。その際、オーストラリア在住の日本人の方々を集めてさまざまな催しを企画してください、体験をさせていただきました。七夕の時期にせっかく訪問していただけることから、見学だけではなく、ソルズベリー市のブースをつくり、交流団の方々も体験をしていただき、市民と一緒に楽しめて、さらなる交流が図れるようにしたいと思いますけれども、どう考えますでしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 昨年10月、茂原市から訪問団が訪れた際には、金坂議員をはじめ、多くの皆様に御協力をいただき、ソルズベリー市との親交を深めることができました。改めて御礼申し上げます。

ソルズベリー市の訪問団につきましては、来年の七夕まつりにあわせお越しいただく予定です。お迎えする際には、御提案のようなブースを設置するなど、七夕まつりや茂原市の魅力を十分感じ体験していただけるよう準備を進めてまいります。いずれにいたしましても、ソルズベリー市の皆様の熱意に応えられるよう、交流協会や観光協会と連携を図りながら盛大にお迎えをしたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 交流団の訪問に最大限企画してお迎えするというところでございますけれども、先ほど質問の中でも申し上げましたけれども、オーストラリア在住の日本人の方々を集めていただいたんですね、たくさん。私どもも大変親近感が沸きまして、すごく安堵した気持ちも覚えております。茂原市に在住するオーストラリア人は何人住んでおられるのか、その

辺をお聞きしたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 茂原市は4名でございます。郡内では5名、県内では352名でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 市内4名でしょうか。その辺は少ないような気がします。例えば、私たちが在住の日本人を集めていただいて歓迎を受けましたので、4人じゃちょっと少ないので、茂原市だけじゃなく、在住地域を広げて交流団をお迎えしたらと思いますけれども、その辺はいかがでしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） すばらしい御提案だと思います。たまたま昨日、ジャパンディスプレイに2人の研修生というか、勉強に来ている方がお二人いまして、その送別会があったんですけども、来年の七夕の時期にもお二人お見えになっているかと思います。今後、茂原市や七夕まつりに関する資料を作成いたしまして、関係機関に働きかけるなど、多くの情報を提供することにより、オーストラリア人を含めた外国の方々に参加していただけるよう検討してまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 茂原公園の整備についてお聞かせいただきたいと思いますが、桜の木の整備計画については、先ほどお話を伺いましたが、弁天湖の周囲、法面が崩れたり、いろいろ危険な箇所もあるようなところも見えます。弁天湖周辺の整備計画について考えておられるのか、その辺をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 嶋川文夫君。

○都市建設部長（嶋川文夫君） 弁天湖周辺の整備につきましては、職員の巡視や定期点検を行うなど、状況に応じた補修や日常の維持管理に努めているところでございます。

なお、護岸につきましては、湖畔周辺に植えられています公園のシンボルであります桜の再生を最優先に考えた上で方針を今後決定してまいりたいと考えております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 春は、本当に茂原公園は桜が咲いてきれいなんでありますけれども、それ以外にも憩いの場所として楽しめなければいけないと思います。春は桜、秋は紅葉のように、四季を楽しめるような公園にしたらと思いますが、その辺を伺いたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 公園内には春の桜をはじめとしまして、梅園ですとか、ツツジ、アジサイ、スイレン、紅葉等の四季を通じて楽しめるさまざまな植物が植えられておるわけですが、たくさんのを植えて、市民の憩いの場、自然とのふれあいの場として親しまれておるところでございます。しかしながら、多くの樹木が植えられてから長い年月がたちまして、樹勢が衰えるなど良好な環境が保てない箇所も見られますので、順次、適正な剪定等の回復作業を行うとともに、植え替え等も考慮いたしまして、今以上に魅力のある公園にしていきたいと考えております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありますか。金坂道人議員。

○10番（金坂道人君） 茂原市の愛唱歌の普及についてですけれども、先ほどチャイムだとか、教育委員会をお願いをして合唱コンクールなどで歌っていただけるようにしていくというお話を伺いました。今後も、できるだけ市民に浸透するように努めていただきたいと思います。これは要望でございます。

学校施設について、耐震ですけれども、耐震化を早く進め、できれば五郷小学校の管理棟のトイレを整備していただきたいなというふうに思います。これも要望でございます。

昨日の市長の災害についての質問者への答弁を聞きますと、今後、このようなことがあってはならないとの強い意思を示されたと思います。私もこんなことがあってはならないというふうに考えております。台風26号の後の27号は襲来しませんでしたけれども、26号の被害状況を踏まえ、約1万5000袋の土のうの準備をし、配付したと聞いております。そのうち1万袋は市の職員が力をあわせてつくったんだという話も聞き、あと5000袋は業者に委託したとも聞いております。私の後ろに座っている伊藤議員も、そのときお見かけしたんですけれども、重い土のうをトラックからおろしておりました。大変御苦労さまでした。いつ災害が来るかはわかりません。今後も市民の生命と財産を守っていけるような政策の推進をお願いいたしまして、一般質問を終了いたします。

○議長（腰川日出夫君） 以上で金坂道人議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午前11時50分 休憩

☆ ☆

午後1時00分 再開

○副議長（鈴木敏文君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、細谷菜穂子議員の一般質問を許します。細谷菜穂子議員。

(13番 細谷菜穂子君登壇)

○13番（細谷菜穂子君） 皆様、こんにちは。細谷菜穂子でございます。多くの市民を代表いたしまして質問をさせていただきます。

10月16日、台風26号により茂原市は本当に甚大な被害を受けてしまいました。被害に遭われた皆様に、まずお見舞いを申し上げます。

そしてまた、市長をはじめ、市役所の職員全員で対応にあたってくれたことにまず御礼を申し上げます。そして消防の方、ボランティアの方、関係の皆様に敬意と感謝の気持ちを捧げたいと思います。

残念なことといえば、外房地区では唯一の図書館ではありますが、1万5000冊の本が、金額でいえば約2300万円でございますが、失ってしまったということがあります。

1週間後に台風27号、あるいは28号、ダブル台風が来るやというふうな報道があり、土のうを積む対策ということで、市役所の職員全員、あるいは御関係の方々の御協力によりまして、1万5000個の土のうを積んで、その対応にあたったということでございます。地震は突然来ます。しかし、台風は予測ができるというふうに言われておりますので、来年の台風シーズンまで、この夏までは対応をしなければならないというふうに市長も強いお言葉で昨日申しておりましたとおりでと思います。国への働きが大事だと思えます。県への働きはもちろんのこと、国、国土交通省へしっかりとした対応をしていただかなければなりません。二度とこういうふうな甚大な被害をこの茂原市にしてはならない、これからの茂原市の発展のためにも、これは何が何でも、この茂原市が水害のまちとレッテルを張られないようにやらなければならないと思えます。

したがって、通告をしたとおり私はこれから質問をいたしますが、まず1番目といたしまして、水害対策でございます。

(1) 今後の水害対策の取り組みについてでございます。具体的な取り組みについてお伺いいたします。検証していると思えますが、今現在の決まっているものを、明確な対応ということでお願いをいたします。

それから(2)番目といたしまして、災害時の市民への伝達方法でございます。災害になってしまったからは、市民は情報が欲しいんですよ。あるいは夜の場合ですと、夜寝ていて起こさなくちゃいけないわけです、知らせなくちゃいけないわけです。いろいろな方法が今回もなされたわけですが、改めて、茂原市で市民に注意を呼びかける方法がどのようなのがあるのかお

伺いをいたします。

大きな2番目、教育問題でございます。

携帯電話はほとんどの方が持っている時代になりました。小学生が30%、中学生が60%、高校生は90%、従来の携帯電話に加えてスマートフォンというのが主流になりつつあるような、いろいろな機能を持っているスマートフォンでございます。カメラというよりも、写真をバシバシ撮れる、何でもできるような、そういうスマートフォンでございますが、そういう普及に伴いまして、市内の学校教育の現場、もちろん家庭的な問題もあると思いますが、学校にいたる間、携帯電話はどのように指導されているのかお伺いをいたします。

それから(2)としまして、道徳教育でございます。国のほうは平成27年4月から、道徳というのをしっかりとした教科書で授業化ということを出しております。教科書を今つくりつつあります。そういうふうな今現在の中で、茂原市の小学校、中学校の現場で道徳という授業がどういう状況なのか、まずお伺いいたします。

それから、この議場にも国旗と茂原市の旗がございます。茂原市役所にも毎日国旗が揚げられております。茂原市内の学校、小学校が14校、中学校が7校ありますが、学校では国旗が毎日揚げられているのでしょうか。そのあたりをお伺いいたします。

大きな3番目、治安対策でございます。

防犯意識、犯罪に巻き込まれないか、防犯ということが一番、今大事になってきておりますが、千葉県では森田知事が肝入りの政策といいまして、コンビニに防犯ボックスを置いて防犯の意識を高めるというふうなことが新聞にも大きく報道されております。この茂原市も、地域のボランティアの防犯の皆様の活動は、大勢の方がボランティアで、防犯のジャンパーを着、旗を持ったり、帽子をかぶったりしていただいている見守りとしてやっておりますが、やはり拠点は警察になるんでしょうが、これは県の事業になると思いますが、移動交番ということも平成22年度から始まっておるんですよ。50台の移動交番の車が千葉県中走っているんです。現職の警察官、あるいは警察官を御退任されたOBの方などが中心になってやられているようですが、我が茂原市の移動交番の現状をお伺いいたします。実はきょう、2時から3時半まで、ちょうどこの茂原市役所に移動交番が開設されるんですよ。駐車場に開設されますので、皆様、御確認いただければなというふうにも思っております。その現状をお伺いいたします。

大きな4番目、市民生活でございます。

(1) 可燃ごみ、つまり燃えるごみ袋の料金についてでございます。千葉県で一番高いごみ袋なんですよ、私たちが住んでいるこの長生郡のごみ袋というのは。私、きょうはごみ袋を持

ってまいりましたが、今現在のごみ袋は40リットルで、一番大きなサイズ、これは1枚65円ですよね。なぜかこの65円のごみ袋が、大は小を兼ねるといことなのかもしれませんが、去年のデータだと300万枚売れております。一番大きいのが一番売れるんですね。田中市長もごみ袋の値下げということで力を入れていただいております、平成24年11月号の広報「市長が行く」ナンバー45に、ごみ袋値下げについて記されておりました。心強い文章だと思います。その進捗状況、このごみ袋はお店で買いますので、来年4月から消費税が8%になりますよね。ごみ袋の値段はますます上がるんだろうかというふうな声も聞かれます。そのあたり、どういふふうになっておられるのか、わかる範囲でお答え願いたいと思います。

次に、ごみ袋の色についてでございますが、平成18年1月より、長生郡広域ということでブルーのごみ袋になりましたが、茂原市は、前は、懐かしいですね、皆さんね、黄色いごみ袋だったんですよ。あえて私はきょう、この質問をさせていただきました。いろいろな方から、カラスがたくさんいて、カラス対策に困っているんだけどもというふうな声も聞きます。どうもカラスは黄色い色が嫌いだということが専門家の話でわかりました。そういうふうな流れで、東京都の杉並区では黄色いごみ袋にしてカラス対策に成功したというふうな事例があるんですけども、あえてこの場で質問させていただきますが、環境と色によるものというのは重要なものがあるんですね。どうせ同じ値段であれば、黄色のほうが効果が上がるのではないかなというふうに思いますが、そのあたりはどのようにしておられるのかお伺いをいたします。

次に、5番目といたしまして、自治基本条例についてでございます。

まちづくりとして、委員の方が提言書をまとめてやっていただいておりますが、誰でも参加できるという形の条例は非常に危険ではないかなというふうに感ずるわけでございます。茂原市に勤めている、茂原市の学校にいる、どこに住んでいてもというふうな市民の定義のように、読みますと、そういうふうに書いておりますが、そのあたりはどういうふうに当局では考えておられるのか質問をいたします。

最後に、市のPRについてでございます。9月22日日曜日、これは全国放送でございます。朝8時からNHKの「小さな旅」という番組があります。これに茂原市が出たんですよ。皆さん、ごらんになった方、いらっしゃいますか。はい。私も見られなかったもので、後で録画をいただきましたけれども、全国放送の「千葉県茂原市、地の恵み湧き立つ」というすばらしいタイトルで、つまり地の恵であります天然ガスがメインになっておりますが、放送されたわけでございます。ほとんどの方が市民の方、あるいは市役所を訪れる方、いろいろな方、見ていただいたほうがいいです。これは全国放送で茂原市が出たわけですから。市役所のところに画

面に放映するとかして、あるいは小学校、中学校の若い人に授業の一貫として見せるとか、これは大変な意義があると思います。そのあたりはどのように考えておられるのかお尋ねをいたします。

1 回目の私の質問を終わりにいたします。

○副議長（鈴木敏文君） ただいまの細谷菜穂子議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 細谷菜穂子議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、水害についてであります。今後の具体的な取り組みについてという御質問ですけれども、水害対策の今後の具体的な取り組みにつきましては、昨日、きょうの午前中とも話しておりますけれども、発生直後から長生土木事務所においてさまざまな要因の分析を行っており、先日、11月26日に一宮川浸水対策の検討が行われたところであります。その中では、一宮川の上流域である水上での雨量が平成8年の大雨のときよりも上回るデータが観測されていることや、一宮川と調節池の水位観測データを時系列で整理された資料、また、一宮川流域での地盤沈下の状況等が報告されたところであり、今後さらに検討を進め、今年度末をめどに具体的な対策案を取りまとめる予定となっております。

なお、県では早急な対策として、今年度から河川法面の堆積土の撤去や草木の除去を実施していくとしております。

次に、市民生活について、可燃ごみ袋の料金についてであります。県内で一番高い可燃ごみ袋の料金引き下げについて進捗状況ということなのですが、私も、議員から御指摘のとおり、広域の管理者会議の場で引き下げについて提言をしたところ、なかなか同意を得られなかったということで、今に至っております。それ以後の進展は見られませんが、話し合いにより合意が得られるよう努力してまいりたいと思っております。

また、消費税改正後の可燃ごみ袋の料金につきましては、現行では消費税を内税として20リットル袋35円、30リットル袋50円、40リットル袋65円となっておりますが、議員御指摘のとおり、私も一番高く設定されていることに疑問なんですけれども、このごみ袋を消費税が上がるからといって同じように上げるわけにいかないと思っておりますので、本市がごみ袋の値下げについて提案している状況などを勘案いたしまして、平成26年4月以降も現行の料金を据え置くことで広域組合の11月の議会にて可決されたところであります。これにより、わずかではありますが、市民の皆様の経済的負担が軽減されるものと考えております。

次に、自治基本条例についてであります。市民として参加できる形の条例案について見解はとの御質問ですが、自治基本条例を考える市民の会から御提出いただいた提言書では、市民の定義につきまして、市内在住、在勤、在学の個人及び市内で事業や活動を行う個人、法人、その他の団体とされております。その提言理由といたしましては、それらの皆様が既にまちづくりに積極的に取り組んでいる事例も数多く見受けられ、将来的にも御協力いただく必要があるためとされております。今後は、この提言書をもとにまちづくり条例策定協議会において、それぞれの分野からの委員の皆様幅広い角度から御検討をいただくことになっております。御質問の市民の定義につきましても、協議会において慎重に御検討いただきながら条例の策定が進められていくものと考えております。

私からは以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

（総務部長 麻生英樹君登壇）

○総務部長（麻生英樹君） 総務部所管の御質問に答弁をさせていただきます。

まず、災害時の市民の皆様への情報の伝達についてでございますが、方法といたしましては、防災行政無線の発信、広報車によります巡回放送、もばら安全安心メール、エリアメールなどのメールの配信、さらにはホームページへの掲載、報道機関の活用などがございます。

次に、9月に放映されたNHK番組「小さな旅」の録画を市のPRに活用することについてでございますけれども、御提言のありました録画番組の利用につきましては、市からNHKに問い合わせをいたしましたところ、著作権の問題がございまして許可していないとのことでした。したがって、大変残念ではございますが、市役所内で放映することは困難でございます。しかし、小中学校で授業を担当する者が使用することにつきましては、著作権法により認められておりますので、これは可能でございます。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 教育長 古谷一雄君。

（教育長 古谷一雄君登壇）

○教育長（古谷一雄君） 教育関係の御質問にお答えをいたします。

初めに、市内小中学校の携帯電話の指導の現状はどうなっているのかという御質問でございます。携帯電話所持の低年齢化が進んでいる中で、携帯電話についての正しい知識を持ち、適切な使用ができる児童生徒を育てていくことは極めて重要な課題であると考えております。学校での携帯電話の指導の現状につきましては、持ち込みを全面禁止にしたり、条件付きで許可したりしております。加えまして、警察や電気通信事業者を講師に招聘し、トラブルに巻き込

まれないための研修会や安全教室を実施したり、保護者へ協力を依頼したりする等、児童生徒が犯罪被害に遭わないよう、また、加害者にならないよう指導の機会を設けているところでございます。

次に、道徳の授業の現状は、また、国旗を毎日掲げているのかという御質問にお答えをいたします。道徳の現状につきましては、小中学校においては毎日の学校教育活動全体を通して道徳教育を実施しておりますが、特に週1回、授業として道徳を実施しております。また、現行の学習指導要領が完全実施された平成24年度からは、各学校に道徳教育推進教師を位置づけ、指導計画の作成や研修の中心となって道徳の充実に努めております。

なお、国旗を毎日掲揚している学校は小学校8校、中学校3校の計11校であり、他の10校については入学式、卒業式、運動会等の行事において国旗を掲揚しております。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 市民部長 森川浩一君。

（市民部長 森川浩一君登壇）

○市民部長（森川浩一君） 市民部所管にかかわります御質問に御答弁申し上げます。

治安対策について、移動交番の現状と効果はどの御質問でございます。千葉県警では、安全で安心できる県民生活の確保と地域の防犯力を強化するため、平成22年3月から移動交番車の配備を始めました。茂原警察署には平成23年4月1日に配備され、現在、市役所を含め市内4カ所で定期的に移動交番が開催され、また、イベント等にも要請があれば対応しております。移動交番車には男性1名、女性1名の警察官と移動交番相談員1名が配置され、安全相談、巡回パトロール、子供の見守り活動などの防犯指導等の活動を行っており、これらを通じまして市民に安心感を提供し、また、犯罪抑止にも効果があるものと考えられます。今後も市民が安全で安心して暮らせるまちになるよう、茂原警察署と連携したまちづくりに努めてまいります。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 経済環境部長 豊田正斗君。

（経済環境部長 豊田正斗君登壇）

○経済環境部長（豊田正斗君） 経済環境部所管にかかわります可燃ごみ袋の色につきましては、御質問に御答弁を申し上げます。カラス対策に有効なごみ袋の色につきましては、黄色い袋だけでは効果がなく、カラスが見える近紫外線を阻害する特殊物質の顔料を入れた黄色いごみ袋が有効であると言われております。この特殊なごみ袋は、議員の御意見にもありました杉並区などで既に導入されておまして、一定の効果があらわれていると伺っておりますが、特殊

な物質を使用することにより、ごみ袋の製造コストが上がり、ごみ袋の販売価格も上がってしまふというデメリットがございます。本市といたしましては、ごみ袋の値下げを第一優先に考えておりますので、コストが高くなるごみ袋の導入については難しいものと考えております。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 再質問ありますか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 御答弁ありがとうございました。

1番目の水害対策でございます。今回、中の島地区とか、小轡とか、ポンプの設置とかがあった関係であまり被害がなかったように思いますが、排水ポンプの設置についてはどのように考えておられますか。

○副議長（鈴木敏文君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 現在、中の島地区を含めまして常設の排水ポンプ場は6カ所あります。浸水被害防止のための内水排除に大きな役割を果たしたと思っております。このことから、浸水被害を防止する上でも内水排除は最も有効な対策と考えておりますので、一宮川浸水対策の検討に内水対策も含めて検討するとしているところでございます。以上です。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 次へいきます。（2）の災害時の市民への伝達方法でございますが、幾つか種類がありますが、皆さんが防災行政無線が雨の音、風の音で聞こえないというのはいろいろなところから出ているわけでございますが、やはり繰り返し、繰り返し、繰り返し、繰り返し、繰り返し、繰り返し、繰り返し、何度もサイレンを鳴らして言わないといけないと思っておりますが、いかがですか。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 御指摘のとおり、伝達する内容に応じまして、今後は繰り返し行うように努めてまいります。また、ただいま御指摘のありました無線を流す前に、今チャイムが鳴っておるわけでございますけれども、これにサイレンを組み合わせることについても今後検討してまいりたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） サイレンを組み合わせるといってお話でしたけれども、そのサイレンを組み合わせると、音を普通のサイレンとは違う、災害のときには組み合わせると、よりよい効果が出るようお願いしたいというふうに思いますが、それでも聞こえないという人には戸別受信機、高額というふうに聞いていますが、その必要性も大事だと思います。

1つ、これは11月21日の千葉日報でございます。君津市のことが出ておりました。君津市では11月22日から防災行政無線を自動的に受信し放送内容を聞くことができる多機能型防災ラジオを1台5000円で販売する。防災行政無線が聞き取りにくいという声がたくさんあり、当初予算で750万円の予算を計上してラジオを購入した。君津市では、危機管理課というセクション、窓口があるわけでございますが、聞き取りにくい方は無料の貸し出しも行っているという、そういうこともありますので、そのあたりは、聞こえないといけないわけですから、いかがでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 御質問にございました防災行政無線を受信する防災ラジオというのは比較的安価でございまして、検討した経緯がございます。ただ、これは導入した団体からの情報ですと、受信感度が不安定であるというふうな情報もございます。また、もう一つは、この機器はアナログ波しか受信できませんため、デジタル化を進めていく中で将来使えなくなるというふうなことから、その採用を見送ったという経緯がございます。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 先ほどの君津市の事例でございますが、これについてはどういうふうにお考えでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） それは、そのような前提を踏まえた上でやったものと思われまして。

○副議長（鈴木敏文君） さらに質問ありますか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 次に移ります。教育問題でございます。携帯電話のことでございますが、先ほどの御答弁で、条件付きは許可するという事、その条件付きとはどういう場合をいうのか。あるいはトラブルとか、いじめとか、そういうのにつながった事例はあるかどうか伺います。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 携帯電話の条件付き許可につきましては、学区外や遠距離の通学、または、けがのため保護者に迎えの連絡など保護者からの申し出があり、必要と認めた場合でございます。

また、トラブルの事例につきましては、24年度の調査によりますと、小学校で1件、中学校で3件ありました。

なお、本年度につきましては、10月末現在で、小学校で1件、中学校で4件の報告を受けて

おりますが、いずれも解決しております。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 携帯電話は緊急のときとかは非常に便利なきも、もちろんありますが、トラブルの事例ということが多くなってきているということでございます。これは千葉日報の11月14日の新聞でございます。中高生のインターネットへの書き込みを監視する千葉県のネットパトロール事業でございます。今年4月から半年間で確認された問題のある書き込みのうち生徒指導が必要なものが538件、これは前年度から比べると倍の数と書いてあります。スマートフォンの大きな普及により、簡単に書き込みができるようになった一方、トラブルに巻き込まれるケースが多い。こうした書き込みはスマートフォンの普及で今後さらに増加する懸念があります。写真を撮影したその場で書き込むなど、ネット掲載が手軽になる一方、掲載された個人情報が悪用されたり、しまいには犯罪に巻き込まれるという危険性があるということの認識が乏しいというふうに書いてあります。ネットの適正な利用の啓発に向けて、生徒児童だけでなく、保護者向けの講演会活動を強化し、個人の情報をむやみに掲載しないでほしいと呼びかけていると、こういう記事もございました。したがって、先ほどのトラブルの我が市の事例は、小学校は1件でございましたけれども、中学校は増えつつあるわけでございます。情報は、親よりも子供のほうがキャッチしていますよ。親のほうが疎いようなところがあると思いますので、保護者会とか、あるいは母親学級などで何回も何回も伝えていく。子供の命は親が守るんだという、そういう義務があるんだよということを親にも、親学、知らせていかなくてはいけないのかなというふうに思いますが、そのあたりはどうでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 各学校では携帯電話のトラブルから身を守るために児童生徒への指導は当然でございますけれども、保護者への情報提供に努めております。また、今後とも機会を見て具体的な事例を取り上げながら、トラブルの被害者や加害者にならないように指導助言して協力を求めてまいりたいというふうに考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 次へいきます。道徳教育でございます。我が市の道徳教育、授業をやっているということでございますが、授業を今現在教えている先生はどなたなのか、あるいは道徳の授業がほかの授業に代えられているということはないでしょうか。伺います。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 道徳を教えている指導者は、小中学校とも学級担任でございます。

各学校から提出されている教育課程実施報告書によりますと、市内小中学校における平成24年度の道徳の平均授業時間数は、小学校で38時間、中学校で35.7時間と報告されております。いずれも1年間の道徳の標準時数の35時間を満たしており、市内小中学校では他の授業に振り替えることなく道徳の授業が実施されているものと思います。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） わかりました。

次、国旗の掲揚でございますが、毎日掲げていない学校が10校あるということでございますが、その理由があれば教えてください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 国旗の掲揚につきましては、学習指導要領に入学式や卒業式などにおいて掲揚すると示されておりますので、本市の小中学校全校でその規定はクリアしております。毎日掲揚している11校につきましては、学習指導要領以上に掲揚していることとなりますので、御理解をお願いします。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 次に移ります。治安対策でございます。移動交番の地域密着でございますが、その移動交番は、我が茂原市では定期的開催されているということでございますが、具体的な日取りとか、曜日とか、時間などは決められておるのでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 市内におけます移動交番の開設につきましては、先ほど申しました茂原市役所、ショッピングセンターアスモ、茂原公園、スーパーハヤシ六ツ野店、この4カ所で行っております。開設の日には毎月異なるんですけども、開設時間につきましては、午前あるいは午後の1時間30分程度、午前中は10時から11時半まで、午後は2時から3時30分までというふうになっております。

なお、開設の予定表につきましては、千葉県警察のホームページあるいは茂原市のホームページから外部接続で確認することができるようになっております。以上です。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 場所によっては、今のお話ですと、昼間でございますよね。11時とか2時とか昼間。夕方の時間とか、そういうふうないろいろな時間に開設したほうがより効果が上がるのではないかなというふうに思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 茂原警察署では移動交番の開設のほか、限られた人員の中で下校時間帯にあわせた地域の防犯活動の業務も行っているということでございます。開設時間帯に変化を与えることは事業効果を高める上では効果があると思われまますので、議員の御意見につきましては、茂原警察署に申し伝えてみたいと思います。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） よろしく願いいたします。

次に、市民生活のごみ袋でございますが、先ほど市長の答弁で、消費税が上がってもそのまの値段ということは、本当にありがとうございます。しかしながら、県内では一番高いということには変わりはないわけですから、毎回のよう一般質問の中でごみ袋の値下げということでいろいろな議員が質問されておるように、引き続き値下げをしていくというふうな考えには変わりはないのかどうか、もう一遍お伺いいたします。

○副議長（鈴木敏文君） 市長 田中豊彦君。

○市長（田中豊彦君） 議員御指摘のとおり、市民の皆さんの経済負担を少しでも軽減したいと、こう考えておりますので、引き続き構成町村並びに広域組合に値下げについての働きかけをしまりたいと思っております。茂原市がお願いしてもなかなか認めてくれないところもありまして、非常に頭が痛いところでございます。よろしく願いいたします。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） よろしく願いいたします。

次に、ごみ袋の色でございますが、難しい言葉を言っていましたね。特殊な塗料をごみ袋の黄色い袋に塗ってということでコストが上がると、それはやはり単なる黄色の色だけでは効果がないんだろうと思いますけれども、同じ黄色であっても、もう少し濃いめのからし色っぽい黄色とか、多少研究を重ねていただいて、値段が上がることはいけないと思いますけれども、やっていただきたいなというふうには思っております。

それからもう1点、ごみ袋の値段が安いとごみの量が増えるというふうな議論が、いろいろな集会でもあるんですけれども、ごみ袋が安くなるとごみの量が増えると思いますかと質問しますと、誰もそう言いません。私も主婦の一人でございますが、タダであれば増えるかもしれませんが、ごみ袋が。やはりお金を払ってごみ袋を買っておりますので、ごみの量が増えるとか、そういう心配はないと思いますが、そのあたりも含めてどうお考えでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 議員おっしゃっているとおりでございますが、ごみ袋につき

ましては、他市の実証実験の結果、黄色にするだけでは効果が得られないということは言われておるんですが、ほかに先進事例があるかどうか、引き続き広域組合、構成市町村並びに組合事務局のほうと調査研究をしてみたいと思います。

それから、ごみの量については、議員お伺いのおりだと思います。以上です。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） よろしく願いいたします。

次に移ります。自治基本条例でございます。まちづくりに参加する思いということは非常にわかります。多様化している現代社会の中で、日本人、外国人、いろいろな人、あるいはいろいろな団体、あるいはいろいろな思想等々あると思います。それがわかりませんので、そのあたりの懸念はないのかどうかお伺いをいたします。

○副議長（鈴木敏文君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 御質問のとおり、グローバル化が進む中、国籍なども多様化している社会であります。地域の担い手が減少する中で、まちづくりに参加する人、団体につきましても協議会において今後御検討をいただくことと考えております。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） この条例は茂原市近隣、例えば市原市とか、東金市とか、千葉市とか、そういったところではつくっておりますか。

○副議長（鈴木敏文君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 市原市、東金市、千葉市、近隣の市町村で自治基本条例を制定している自治体はございません。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） わかりました。

次へ移ります。最後の市のPRでございますけれども、全国ネットで放送されたということで、先ほどNHKの著作権の問題ということでございますが、それは残念だと思いますが、この茂原市に、ゼロからの出発ではなくて、地の恵みがあるということを知ってもらおう、そしてきっかけをつくって、ひらめき、仕事、あるいはそういう人たちが茂原市に住んでやろうとか、意欲とか、そういったものにつながっていくと思われま。これは県の管轄になるかもしれませんが、県立高校が4つあるわけです。本当はそういう高校生にも、茂原市にこういうのがあるということを知ってもらおうということも私は大事だと思います。ここは市の議場でございますので、対象が小中になるとは思いますが、そういうふうな教育の現

場で、茂原市の天然ガスが無尽蔵にたくさんあって、これからエネルギー問題も議論されている中で、とても有効な内容だと思います。ぜひ若い人に見ていただく。学校の現場であればいいというふうなことでございましたが、工夫をしていただいて、学校のほうにやっていただければというふうに思っております。いかがでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 議員御指摘のとおり、この番組につきましては、茂原市における天然ガスの利用状況や暮らしとのかかわりの点から、小中学生の視聴については大変意義あるものと考えております。今回の放映につきましては、各学校に事前に周知し、活用が図られるように対応いたしましたところがございます。よろしく申し上げます。

○副議長（鈴木敏文君） 細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） よろしくお願いいいたします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○副議長（鈴木敏文君） 以上で細谷菜穂子議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午後 1 時 50 分 休憩

————— ☆ ————— ☆ —————

午後 2 時 00 分 再開

○副議長（鈴木敏文君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ここで申し上げます。質問者であります三橋弘明議員より、一般質問に関する資料の配付の申し出がありましたので、これを許し、お手元に配付いたしました。

次に、三橋弘明議員の一般質問を許します。三橋弘明議員。

（20番 三橋弘明君登壇）

○20番（三橋弘明君） 会派絆（きずな）の三橋でございます。

初めに、台風26号で被害を受けられた方々に心からお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧を願うところであります。会派絆（きずな）といたしましても、市当局、関係者と連携し、原因また対策を考えていきたいと思っております。

さて、通告に従い、一般質問をさせていただきます。

1 項目めは、「はだしのゲン」について伺います。1 点目として、茂原市の図書館及び市内小中学校図書室に「はだしのゲン」は閲覧もしくは貸出図書として置かれているのかどうか伺います。

2点目は、今年の夏、松江市教育委員会における「はだしのゲン」の閉架措置問題がマスコミに取り上げられ、また、マスコミの煽動等もあり、大きな話題となりました。松江市の閉架措置に至るまでの経緯は、市民の陳情をきっかけとして教育委員会が協議し、その結果、問題ありとして閉架措置とのことですが、茂原市教育委員会の見解について伺います。

2項目めは、まちづくり基本条例について伺います。

自治基本条例を考える市民の会から提出されました「茂原市まちづくり条例に関する基本的な考え方（提言書）」がまとめられ、提出されました。提言書の前文にて、市長から市民への呼びかけでスタートしたとあり、行政への市民参加ができたことは市長の呼びかけがあったからこそのことで、画期的であり、すばらしかったと結んでいます。提言書をいただいた市長の感想を伺います。以上です。

○副議長（鈴木敏文君） ただいまの三橋弘明議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 三橋弘明議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まちづくり条例に関する基本的な考え方を受けて、私の感想ということなのですが、自治基本条例を考える市民の会の皆様方におかれましては、20か月もの長きにわたりまして、夜間や休日など37回にも上る会議を重ねていただきました。私としては、大変感謝し、また、その御労苦に対しまして心から御礼を申し上げる次第であります。

この提言書には、市民の会の皆様の大変熱心な議論の結果、市民参加のまちづくりの基本的なルールであるまちづくり条例についての思いが凝縮されているものと考えております。今後、この貴重な御提言をもとに、学識経験者や市民、議会、行政の代表者からなる協議会が設置され、条例案についてさらなる検討がなされるものと考えております。

私からは以上です。

○副議長（鈴木敏文君） 教育長 古谷一雄君。

（教育長 古谷一雄君登壇）

○教育長（古谷一雄君） 教育関係の御質問にお答えをいたします。

初めに、図書館及び学校図書館には「はだしのゲン」は閲覧もしくは貸出図書として置かれているのかという御質問にお答えをいたします。図書館では「はだしのゲン」のコミック本は蔵書していませんが、文庫本と絵本は蔵書しております。小学校におきましては、14校中7校、中学校では7校中6校が蔵書し、閲覧、貸し出しを行っております。

次に、松江市教育委員会の「はだしのゲン」の閉架措置問題に対する教育委員会の見解はという御質問にお答えをいたします。松江市教育委員会は、閉架手続きに不備があったとして撤回を決定したと伺っております。また、全国的に見ましても、閉架措置を講じた松江市に呼応したところはありませんでしたし、現在においてもございません。茂原市教育委員会におきましても、「はだしのゲン」につきまして問題視する意見等は受けておりませんので、各学校での判断により閲覧、貸出図書として開架しております。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 再質問ありますか。三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） それでは、まず「はだしのゲン」の問題についてお聞きします。問題視されていないということですが、お配りした資料を見て、それぞれ議員また職員の皆さん、いろいろな思いがあると思いますが、まず1つは、日本国の憲法を否定する内容であると、天皇を否定しておるんですけれども、天皇陛下は日本の国の統合の象徴であるという点で、その点に関してどのような教育委員会として見解をお持ちか伺います。

○副議長（鈴木敏文君） 答弁を求めます。教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 「はだしのゲン」につきましては、各方面から多種多様な御意見があることは承知しております。それを受けまして、学校教育の現場といたしましては、異なる意見を幅広く学ぶことによって、さらに自分の考えを深めていくことは大切であるというふうに考えておりますので、異なる意見は許容限度を超えないと問題がないというふうに考えております。許容限度の判断は人によって考え方は違うと思いますので、難しい問題でありますので、世論の動向を見てまいりたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） さらに質問ありますか。三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） 多様な考えがあるということはわかるんですけれども、小学校では半分、中学校では7校中6校ということなんですけれども、例えば小中学生にポルノとかエログロのそういう本を読ませていいのか、図書室に置いていいのかというときに、問題があると思いますけれども、その点についていかがでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 問題のある描写につきましては、判断するのが難しいので、世論の動向を見てまいりたいというふうに考えておりますので、御理解のほどよろしく申し上げます。

○副議長（鈴木敏文君） 三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） 問題のある点ということなんですけれども、「はだしのゲン」は、当

初、主人公のゲンが、被爆体験をもとにたくましく生きるゲンの姿が描かれておると、そういう漫画だと思っていたんですけども、今回のマスコミの取り上げによって非常に問題があると。なぜそうなったかという、最初は漫画に連載していたけれども、その後、日教組の機関紙「教育評論」へ連載するようになってから作風が変わり、お配りしました第10巻では、配付資料のようなエログロな残虐なシーンが描かれるようになったと。これは逆に言えば、日教組の平和教育路線が背景にあると言われておりますけれども、そういう日教組教育というものについていかがでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 日教組の教育に対する考え方につきましては、教育委員会としてこの場で意見を述べることについては差し控えさせていただきますので、よろしく御理解をお願い申し上げます。

○副議長（鈴木敏文君） さらに質問ありますか。三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） 1つは、日教組といっても、教育基本法の本質です。我が国と郷土を愛する態度を養うということに対して、こういう本は適切でないと思いますが、それに反していると思いますが、見解を伺います。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 先ほども申し上げましたとおり、さまざまな意見があることは承知しておりますが、全国の図書館や学校図書館でこれにより閉架したという例は聞いておりませんので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

○副議長（鈴木敏文君） 三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） 御理解のほどということなんですけれども、まずもって、市の図書館、また学校図書にこういう本が置かれているということは学習指導要領に反しておると。それは天皇についての理解と敬愛の念を深める、これは小学校社会の指導要領。児童の発達段階を考慮し、社会的事象を公正に判断できるようにする。この資料の中には入っていないんですけども、ゲンが卒業式のために「君が代」は歌わないという下りがあるんですけども、国歌「君が代」はいずれの学年においても歌えるように指導するという、小学校の指導要領、音楽になっています。こういう中で、全体を通して、日本人としての自覚を持って国を愛し、国家の発展に努めるという大きな学習指導要領がある中で、そこに反しているこういう本を置くことに問題があるのではないのでしょうかということ、改めて見解を伺います。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 学習指導要領の中に国旗を掲揚して国歌を歌うということにつきましては、入学式だとか卒業式とかの行事のときに実施するという事は承知しております。

「はだしのゲン」につきましては、先ほども御答弁いたしましたけれども、教育委員会といたしましては、世論の動向を見てまいりたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願い申し上げます。

○副議長（鈴木敏文君） 三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） 世論の動向ということですので、私としましては、この「はだしのゲン」につきましては、閉架措置か撤去すべきと考えております。それは意見、要望とします。

今回、いろいろ図書館について、移転が議案に上がっていますがけれども、新しい図書館に「はだしのゲン」を入れてもらいたくないというのもあるんですけれども、新たな図書を選定を行うときの基準について伺います。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 図書館では、児童書につきましては茂原市立図書館資料収集方針に基づき、子供の情操を豊かにし知識の向上、人格の形成を目指して良書を収集しております。また、小中学校での購入に際しましては、学習指導要領や全国学校図書協議会図書選定基準を参考にして、人間形成のために幅広く偏りのないよう配慮するとともに、発達段階にふさわしい内容であるかを精査して選定しているところでございます。

○副議長（鈴木敏文君） 三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） 発達段階に応じてとか、精査してということですから、ただ、いろいろな意見があるという中で、選ぶ人によって偏る危険性もあるわけですから、その辺の選定委員というか、選ぶ人が、何が公平で中立なのかわかりませんが、そういう目で選んでいただきたいと、そういうことを要望いたします。

まちづくり条例について、次に伺います。市長は、市民の会への御苦勞に対する感謝はよくわかりますけれども、貴重な提言をいただいたということですが、提言内容は、今後協議するので、この議場では答えられないとか答えづらいというお話でしたけれども、市長についていえば、市長の役割、責務とか、いろいろ市長に対する提言もいっぱいあるんですけれども、私から見ると、手かせ、足かせ、首かせをかせられているような提言内容だと感じているんですけれども、その点、支障のないところで答弁をお願いします。

○副議長（鈴木敏文君） 市長 田中豊彦君。

○市長（田中豊彦君） 提言書では、市長については行政組織を代表、統括する、また事務を

管理・執行するものであり、議会と緊密で緊張感ある関係を保ち、市政運営を行うとされております。また、職員の適切な定員管理と能力及び適性に応じた採用、登用及び配置に努めるとともに、研修の機会を設け、これを育成することとされてございます。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） 本提言書を私も読ませていただき、市民の会の皆さんが、前文から始まり、38条に及ぶ内容ときめ細かい体系化された提言に改めてさまざまな議論を積み重ねてきた結果と認識させていただきました。しかし、自治会等に回覧いたしました自治基本条例日より、14号からはまちづくり条例だよりとなりますが、その中身と提言書のギャップの大きさに正直驚きました。ここまで深くいろいろなことを協議していたのかなという思いで驚きました。さらに、自治基本条例において危惧、問題視されておる内容、提言が、それこそ盛り込まれており、改めて誰のためのまちづくり条例なのか疑問と不安を感じるところであります。本条例で危険視されている点を何点かまず定義させていただきます。1つとしては、市民の定義が曖昧であり、暴力団やカルト教団も市民としての権利を持つ危険性があります。2点目としては、市民参画・協働のもと、プロ市民により市政運営がなされる危険性があります。第二の議会とも言われ、選挙で選ばれた私たち議員よりも発言権、行政に対する権限を持つ危険性があります。3点目としては、議会制民主主義を否定し、一部市民による直接民主主義となる危険性があります。4点目としては、住民投票制度の導入により外国人参政権につながる危険性があります。5点目として、今回の提言には最高規範とは書いてありませんが、前後を読めば、本条例が最高規範性を持つことにより、市及び議会にさまざまな尊重義務を負わせる危険性があります。その他、子ども権利条例等、多々あるわけですが、本提言書（案）をもとに協議会にて検討とのことですが、そこで、本条例策定協議会委員（案）では18名の委員構成となっておりますが、現在内定している人数は何人でしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 現在募集している段階で、内定している者は市職員の2名、あとはございません。

○副議長（鈴木敏文君） 三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） まだ募集しているということですが、第1回は12月となっておりますが、予定日と、残り16人、いつごろまでに委員を決めるか教えてください。

○副議長（鈴木敏文君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 遅くとも今月中には決めて、できれば今月中に1回お集まり

いただけるように考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 三橋弘明議員。

○20番（三橋弘明君） 今月中に決めて、今月は顔合わせ程度になるのかどうかわかりませんが、私としましては、その協議会の中で、本条例制定の是非をまずもって協議していただきたい。そういうことを要望いたします。

その上で、市民の会の皆さんには大変申しわけないんですが、是非を協議してもらおうとともに、廃案としていただきたく要望して、質問を終わりにします。ありがとうございました。

○副議長（鈴木敏文君） 以上で三橋弘明議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午後 2 時 24 分 休憩

☆ ☆

午後 2 時 35 分 再開

○副議長（鈴木敏文君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、前田正志議員の一般質問を許します。前田正志議員。

（7 番 前田正志君登壇）

○7 番（前田正志君） 会派もばら21の前田正志です。

まず、先日の台風26号の被害に遭われた皆様方へ心よりお見舞いを申し上げますとともに、対応にあたられました職員をはじめとする関係各位の御尽力に心より敬意を表します。

さて、今議会の一般質問も昨日から私で10人目、本日 5 人目ということで、質問の内容がかなり重複しておりますが、御容赦を願いたいと思います。

まず、6 月議会の私の一般質問で、茂原市の人口増加についての市長の御認識を伺いました。その際、御答弁で、今後の人口動向は市政発展の根幹に関わる重要な問題であると認識しているとの御答弁をいただきました。そして、茂原市でも定住人口を増加させるための検討が行われると理解しております。そして、定住人口の獲得も企業誘致と同じく自治体間の競争となっております。その競争を勝ち抜くためにも、子育て支援の充実は欠くべからざる要素と考えますが、議論の前提として、まず、この子育て支援の必要性について御認識をお聞かせください。

その中でも、子育て世代にとってとりわけ子供の医療費の助成は大きな関心事でございます。特に茂原市と長生郡市内の他の町村をはじめとする近隣自治体との間に子供の医療費の格差が広がっておるということでございます。具体的に申しますと、長生郡内では、入院の場合の対

対象年齢は、一宮町の高校1年生までを除き中学3年生までとなっておりますが、通院の場合の対象年齢は茂原市と白子町が小学校3年生まで、それに対しまして一宮町が高校1年生、睦沢町、長柄町、長南町、長生村が中学校3年生までとなっております。自己負担の額は茂原市と一宮町、白子町、長生村が市町村民税の所得割課税世帯の1日の入院、1回の通院につきまして自己負担が300円となっております。非課税世帯では自己負担がございません。それから、睦沢町、長柄町、長南町では全ての世帯で自己負担がございません。所得制限について見てみますと、茂原市と白子町、長生村が所得制限ありとなっております。一方、一宮町、睦沢町、長柄町、長南町では所得制限がなしとなっております。近隣のいすみ市では、市長が力を入れているということでございまして、助成制度の対象が入院、通院とも高校3年生まで、自己負担、所得制限ともになしとなっております。市原市では、助成制度の対象が入院、通院とも中学校3年生まで、自己負担は、ゼロ歳児が負担なし、1歳児以上の市民税所得割課税世帯の自己負担は、入院1日、通院1回あたり200円、所得制限はなしとなっております。千葉市では、対象年齢自己負担額は茂原市と変わりませんが、所得制限がなしとなっております。大網白里市では、助成制度の対象が、入院が中学校3年生まで、通院が小学校6年生まで、自己負担は入院が中学3年生まで負担なし、通院がゼロ歳児から小学校3年生まで負担がなし、通院は小学校4年生から6年生が、これも市民税所得割課税世帯で自己負担300円、所得制限はなしとなっております。このように近隣自治体との間に子供の医療費の格差が存在していることについて、御見解をお聞かせください。

それから2点目、子供の居場所。先ごろは共働きの家庭が増えたり、おいじちゃん、おばあちゃん、三世同居が減ったり、いろいろと社会環境の変化によりまして、昔は家に帰れば誰かがいた、そういったことでもございましたけれども、子供の居場所が昨今では大変に問題となっております。保育所や保育園、幼稚園、学校などが子供の居場所として考えられますけれども、これら以外の場所での子供の居場所、茂原市の子育て支援についてお聞かせをください。

次に、大きな2番目の項目として、教育・文化施策について伺います。

私の所属しております会派もばら21では、先月、コミュニティスクールの先進的な取り組みをしている福岡県的那珂川町と小中学校での学力の向上やスポーツの振興に地域で取り組み大きな成果を上げている大分県の豊後高田市を視察いたしました。教職員や保護者、行政のみならず、地域住民との相互の協力により地域とともにある学校づくり、人づくりを行っている姿は大変参考になるものでございました。そこでまず議論の前提として、茂原市における教育についての基本的な考え方、その中で学校と地域のあるべき姿についてのお考えをお聞かせくだ

さい。

続きまして、現在、茂原市立図書館の移転について検討がなされております。9月の議会でも質問いたしましたが、その後、10月には台風26号による図書館の浸水被害もありました。現在の図書館移転の進捗状況、経緯、概要をお聞かせください。

次に、大きな3番目の項目であります安心・安全な地域づくりについて伺います。

10月の台風26号、27号への茂原市の対応について、特に住民への情報提供について、防災無線やメールの活用など、どのように行われたのかお聞かせをください。

また、今回の台風被害を受けまして、避難所の見直しをすべきと考えますが、いかがでしょうか。御見解をお聞かせください。

以上で1回目の質問を終わります。詳細につきましては、再質問にてお伺いをいたしますので、どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

○副議長（鈴木敏文君） ただいまの前田正志議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 前田正志議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、子育て支援についての認識についてであります。子育て支援につきましては、核家族化や共働き世帯が増えるなど、社会環境、家庭環境が大きく変わっていく中で、次代の社会を担う子供を安心して産み育てることができる環境を社会全体で整備し、少子化の進展に歯止めをかけることが重要だと思っております。このため質の高い幼児教育、保育の総合的な提供や子育て世代への就労支援などの施策の充実が必要だと考えております。

次に、子育て支援の中で、近隣自治体との子供の医療費助成制度の格差についての見解はこの質問ですが、長生郡内6町村の中で本市と同様に県の助成基準に沿って実施している自治体は1団体で、県内においても3団体のみで、他の自治体は対象年齢、所得制限、限度額等において県の基準を上回っており、他の自治体と制度間に差異が生じていると認識しております。

次に、安心・安全な地域づくりの中で、台風26号、27号への対応の中で、26号、27号の住民への対応についてという質問ですが、まず台風26号の対応ですが、10月15日の17時に第一配備体制をとり、同日17時15分に防災行政無線により気象情報等の注意喚起を行いました。16日、4時5分に災害対策本部を設置し、4時45分に広報車にて緑町などに対し避難勧告を発令し、5時45分には防災行政無線で、5時50分にはエリアメールなどにより一宮川流域の水害が想定される区域に対し避難勧告を発令したところでございます。被災者への対応につきましては、

33カ所の二次避難所を開設して避難者の受け入れを行いました。また、浸水家屋の消毒、ごみの回収、災害見舞金や物資の配布等を実施いたしました。

続きまして、台風27号への対応ですが、雨水の貯留量確保のため、市内のため池の管理者、さらには一宮川上流域の自治体、具体的には長南町、長柄町でございますけれども、ため池などの、あるいは農地などの貯留水量の削減を要請いたしましたところでもあります。また、市民の皆様方に対しましては、1033件、1万5400袋の土のうを配布いたしましたところでもあります。

私からは以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 福祉部長 岡澤弘道君。

（福祉部長 岡澤弘道君登壇）

○福祉部長（岡澤弘道君） 福祉部所管にかかわります御質問にお答え申し上げます。

子供の居場所について、保育所、学校以外での子育て支援についての御質問でございます。保育所以外での子供の居場所につきましては、現在、総合市民センターほか4カ所の福祉センター、駅前学習プラザ、図書館などの公共施設におきまして、ゼロ歳から就学前の子供と保護者を対象とした親子遊び、あるいは体育遊び、自由遊び、また、体験教室などを行っております。また、NPO法人で集いの場や交流事業が行われております。

次に、学校以外でございますが、小学校1年から3年までの学童を対象に、学童クラブを公設5カ所、民設13カ所の計18カ所を開設し、子供さんを安心して産み育てることができる子育て支援を行っておるところでございます。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 教育長 古谷一雄君。

（教育長 古谷一雄君登壇）

○教育長（古谷一雄君） 教育に関する御質問にお答えをいたします。

初めに、子供の居場所について、幼稚園、学校以外での子育てに対する支援はという御質問にお答えをいたします。幼稚園では、希望者を対象に午後2時から1時間の延長保育を行っております。また、リフレッシュデイとして、月2回、全園児を対象に1時間の延長保育を実施しております。

なお、夏休み期間中におきましては、希望者を対象に各園でそれぞれ6日間、午前9時から2時間30分の夏季保育を行っております。小学校におきましては、夏休み期間中に中の島小学校、緑ヶ丘小学校、豊田小学校の3校で夏休み子供教室をそれぞれ7日間、午前9時30分から2時間、実施しております。

次に、教育についての基本的な考え方はという御質問にお答えいたします。学校教育につき

ましては、将来を担う子供たちに生涯にわたりたくましく生き抜く力を身につけさせる大切な営みであると考えております。そのために教育委員会といたしましては、耐震化をはじめ、安心・安全で学習しやすい施設等の整備、また、学力向上や個に応じた指導を推進するための人的配置、地域に開かれた学校づくりに向けた環境整備等が重要なことと考えております。

次に、学校と地域のあるべき姿はという御質問にお答えをいたします。学校は児童生徒の健全育成のために地域の実態や願いを十分に考慮し、学校運営を行うことが必要であると考えております。また、平成18年の教育基本法の改正におきましても、新たに学校、家庭、地域相互の連携及び協力の必要性が第13条に規定されましたので、さらに開かれた学校づくりを推進することが重要であると考えております。

次に、図書館の移転について、経緯と概要はという御質問にお答えをいたします。図書館は施設の老朽化が進んでいることと耐震化がなされていないこと、一方で、駅前学習プラザの利用者が年々減少していることなどから、駅前学習プラザへの移転を計画したところであります。この図書館の移転につきましては、図書館をはじめ、庁内関係課により協議する場を設け、駐車場・駐輪場対策、今後の図書館事業のあり方、予算の確保、職員の取り扱い、学習プラザにある団体の活動場所の確保等を検討してまいりました。図書館の茂原駅前学習プラザへの移転及び指定管理者制度の導入につきましては、庁内協議の検討を踏まえ、政策調整会議を経て庁議で決定したものでございます。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

（総務部長 麻生英樹君登壇）

○総務部長（麻生英樹君） 総務部所管の御質問に答弁をさせていただきます。

まず、台風26号の対応関係で、住民の方々への情報提供についてでございますが、このたびの水害における市民の皆様への注意喚起や避難勧告は防災行政無線、広報車、エリアメール、緊急速報メールを活用いたしました。

次に、避難所の見直しの考えについて申し上げます。避難所の見直しにつきましては、改正後の災害対策基本法に基づく政令によりまして、被災者が一定期間滞在するための最低限の生活環境を満たしていることが必要とされましたため、今後、この指定基準をもとに検証してまいります。これによりまして、現在の避難所の見直しや新たな避難所の指定が必要となる場合もあると、そのように考えております。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 再質問ありますか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） 御答弁ありがとうございます。

まず、子育て支援の認識についての中で、以前、6月の議会の答弁で、市内に人口減少問題に対する対策のプロジェクトチームをつくって、その中で子育て支援も議論をして来年度の予算に反映させていくというような答弁があったと承知をしております。このプロジェクトチームの進捗と成果についてお聞かせをください。

○副議長（鈴木敏文君） 企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） プロジェクトチームにつきましては、これまで10回の会議を開催し、先般、その調査・検討結果及び事業提案の報告を受けたところでございます。今後は、子育て支援に係る事業をはじめ、提案内容を幹事会及び検討会議の場において協議してまいります。具体的な事業の採択につきましては、事業実施に向け財政推計による計画的な財源確保を図りながら、平成26年度当初予算に反映させたいと考えております。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。非常に若手の職員も入っているということで期待をしておりますので、こういった議会の場で御提案のあった政策のほうをしっかりと我々もチェックをしていきたいと思っております。

それから次に子供の医療費について、格差が生じているのは承知しているということなんですけれども、この要因の分析はされているのでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 周辺自治体と本市では財政状況、行政ニーズも異なっております。一律に比較、評価は難しいとは思いますが、現在限られた財源の中で事業の選択と予算の配分の結果であろうと、かように考えております。以上です。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ニーズは、子育て世代だったら充実をしていただいたほうがいいというのは同じだと思います。やはり財政状況が大きく影響していると思いますが、例えば格差の解消といいますか、他の市町村並みにするにはどれぐらいの予算がかかるのかお伺いをしたいと思います。例えば中学3年生まで入院、通院とも自己負担を300円とした場合、これを1番とします。2番、同じく中学3年生まで通院のみ自己負担300円とした場合、3番目として、小学校6年生まで入院、通院とも自己負担300円とした場合、4番、同じく小学6年生まで通院のみ自己負担300円とした場合、最後に、現在の3年生から1学年上げて小学校4年生まで入院、通院とも自己負担300円にした場合と、4年生まで通院のみ300円とした場合の6パターンについて、それぞれ市の負担額はどれぐらいになる推計でしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 今の6パターンという御質問でございますけれども、大変申しわけないんですが、市独自として、通院及び調剤につきましての拡充の財源でしたらお示しできますので、そちらでお願いしたいんですけれども、小学校4年生から中学3年生まで拡大した場合の経費はおよそ1億円余、また、小学校6年生まで拡大した場合の経費は約7000万円余、なお、小学校4年生まで拡大した場合の経費は約2500万円余と試算しております。以上です。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。1学年上げるだけでも2500万円かかるということですので、なかなか難しいのかなと思います。茂原市のほうも市長の御努力によりまして大分、財政調整基金の積み増しも進んでおります。そういった部分もありますので、そろそろこういった子育て支援にも目を向けていただきまして、何とか近々、1学年上げるだけでも、県内最低水準というあまり芳しくない状況から脱することができますので、何とか2500万円ひねり出していただくようお願いいたします。これは要望です。

続きまして、子供の居場所ということでございまして、先日、私のほうに相談を持ちかけられました。若いお父さんからなんですけれども、現在、茂原市に暮らしていて、来年2歳になるお子さんがいらっしゃることなんです。私立の幼稚園に入りたいんですが、国の補助制度を利用してといいますか、年度途中で3歳になる子供に国庫補助があるんですけれども、茂原市が行っている私立保育園の就園奨励費、この補助にはそれが対象にならないんだというようなことでございまして、相談がありまして、結局この方は今議会に陳情を提出されたんですけれども、この件につきまして、年度途中で3歳になる子供についての奨励費の補助が受けられない実態と今後の展望についてお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 幼稚園につきましては、満3歳以上の子供が対象になっておりますけれども、現在、お話のありました方というのは、年度の途中で3歳になった方だと思われまますけれども、これにつきましては、私立幼稚園のほうでそういう枠の受け入れをしている現状でございます。市といたしましては、子ども・子育て支援会議の中で、27年度から制度が確立していく流れの中で、今後、制度も整備されていくというふうに考えておりますので、現状では御理解をいただきたいというふうに考えているのが実情でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） わかりました。平成27年度から国のほうの制度も大きく変わるという

ことでございますし、茂原市におきましても、子ども・子育ての会議を11月から進めているということは承知をしております。こういったことでありますけれども、御相談があった場合には丁寧な対応をお願いしたいと思います。

続きまして、子供たちの居場所として学童クラブというのは非常に大きな役割を果たしていると考えております。先ほど市内に公立が5カ所、民設が13カ所、合計18カ所の学童クラブがあるということございましたけれども、こちらの定員は、ニーズに対してきちんと足りているのかお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） まず、公設のほうからお答えを申し上げます。公設のほうは、現員数が177名でございます。それに対しまして定員は205名ということでございますので、充足されております。民設につきましては、現在279名の方をお預かりしております。定員につきましては365名ということでございますので、どちらも定員は充足しておるということでございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。小学校1年生から3年生までの対象ということですが、それより上の4年生、5年生、6年生もぜひ補助などで預けやすくしていく環境をお願いしたいと思います。これは要望です。

続きまして、子ども・子育て支援事業計画、こちらのニーズ調査が現在行われているということですが、この進捗状況と今後の流れを改めてお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 子ども・子育て新制度につきましては、平成27年4月から行っていくという形で現在作業を進めてございます。今回、11月5日に第1回目の会議を行いまして、その際には、この12月から行いますニーズ調査につきまして詳細な説明をさせていただきました。あわせまして、来年の2月に結果の報告をさせていただき、具体的な協議に入っていくという流れでございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。先日の茂原市のホームページで、ニーズ調査に御協力くださいという中身の記載がありました。その対象が小学校3年生までとなっておりますけれども、3年生までに限った理由は何でしょうか、お聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） ニーズ調査の対象につきましては、新しい制度の中では、幼児期の教育、保育及び地域の子育て支援の対象が就学前のお子さんでありますことから、ゼロ歳から5歳の子供の保護者といたしたところでございます。

それから、現在、学童クラブの利用につきましては、小学校3年生までを対象としておるわけでございますが、本市としましては、今回、日曜日ですとか祝日の利用希望も含めて把握したいというふうに考えておまして、5歳から小学校3年生までの児童の保護者を対象に、放課後の過ごし方の調査をさせていただきたいというふうに考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。そうしますと、いろいろな事情で3年生までというのはわかりましたが、4年生以上のこういったニーズの把握はどうされるんでしょうか、お聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 今回は、国の新制度におきましては、学童クラブの対象が小学校6年生まで拡大するという見込みでございます。ですので、本市としましては、同様の対応をしていくために、今回、あらかじめ、前もって将来の意向調査をしたいということで、このような形で調査を行っていくというふうに考えております。以上です。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。こういった国の制度が変わるときに茂原市もきちんと国の動向を注視するという皆様方の姿勢で、しっかりと制度を茂原市でも根づかせるようにしていただきたいと思います。

それから、夜間・休日・長期休暇期の居場所の充実については、夏休み等にも中の島とか緑ヶ丘でやっているということでございますので、これをぜひとも広げていただけるようお願いしたいと思います。

昨日から質の高い幼児教育というようなお話が出ておりました。しっかりとお願いをしたいと思います。

続きまして、教育・文化施策についてお伺いをいたします。いろいろと教育について大変重要なお話をいただきましたけれども、まず学校の教職員の皆さんがしっかりと生徒児童と向き合う必要があるかと思っております。先日、教職員の皆さんからお話を伺う機会がございました。昨今では、授業や、その準備のみならず、生活指導、部活動、さまざまな調査、報告などの業務が多くて、中には燃え尽きてしまう教職員が増えているとのことでございました。そこで、

教職員の負担についての実態と、その軽減への御認識についてお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 文部科学省の平成18年度、ちょっとデータが古くなって申しわけないんですけども、教員勤務実態調査の結果によりますと、児童生徒が学校にいる間は常にその指導にあたるため、十分な休憩時間がとることもできずにあります。具体的に、数字的に示しますと、平成18年7月から12月まで調査していただきました結果が報告されております。休憩時間については、6分から10分というのが調査結果でございます。一番長いのは、夏休み期間中の44分というのが休憩時間の実態というふうに調査結果になっております。また、下校させた後に授業準備や採点業務等を行う必要があるため、残業や休日出勤の実態が報告されておりますということで、この調査につきましても、平成18年度調査では、残業時間が1か月に平日で約34時間、休日が約8時間という実態という報告になっております。しかし、子供たちの健全育成に取り組むためには、教員の心身が健康であることが基本であり、そのために教員の負担を軽減することは重要なことと認識しております。教育委員会といたしましては、その対応として、少人数学級の実現、教員の事務量の軽減等に努めております。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。そこで、今お話が出ましたけれども、少人数クラス、茂原市においてはどのように展開をされておりますでしょうか、お聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 少人数クラスの状況ですけれども、35人学級の状況ということで、35人学級については小学校1年、2年、中学校1年で実施しております。今年度は小学校1年で3校、小学校2年で5校、中学校1年で2校、合計で市内では10学級が増設となっております。1学級あたりの児童生徒数が減少することで担任の目が一人一人に届きやすい環境となるとともに、教員の負担の軽減にもつながっていると思います。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。しっかり取り組んでいただければと思います。

それから、先ほどもありましたけれども、携帯電話とかインターネット、いじめなど、さまざまな調査とか報告の書類が多くなっているとの声も聞きました。そういった調査とか報告、この辺の実態と対応についてはいかがでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 調査、報告書類が多くなっている実態につきましては、子供たち

を取り巻く社会環境の変化や情報化の進展により、実態調査、報告書等の提出物が増えております。その対応といたしましては、国や県からの同種の調査を精選したり、紙媒体から電子データの報告、提出へと変更したりする等で配慮して事務量の軽減を図っているところでございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。先生方が児童生徒に向き合う時間をぜひとも確保していただきたいと思います。

それでは、続きまして、小中学校への地域のサポートについて伺いたいと思います。先月視察に伺いました豊後高田市では、地域がサポートする補習事業などで、実施前は大分県で下から2番目だった学力が近年は8年連続で大分県トップということでございました。こういった地域のサポートによる補習事業をもし茂原市で行う場合、やりたいというような団体とかがあれば可能なんでしょうか。もし障害があるようでしたら、その問題点などをお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 現在、補習事業といたしましては、生涯学習課による夏休み子ども教室、小中学校が夏季休業中に実施しているサマースクール等があります。地域の方や高校生に手伝っていただいている学校もあります。地域人材を活用して補習事業を実施する上での問題点といたしましては、1点目としては人材の確保、2点目としては個人情報の漏洩問題、3点目としては児童の登下校の安全確保、4点目としては事業にかかる予算の確保等が考えられます。これらのことから、早急な実施は難しいと思われませんが、今後検討する課題と教育委員会としては認識しております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。課題が多いようですけれども、何とか前に進めるようにしていきたいと思っております。

続きまして、部活動の指導も教職員の皆さんが時間を必要とする項目でございます。特に中学校では、部活を見るために休日の大半がそういったことでとられてしまうというような声も聞いております。それから、部活動の指導を行うべき先生が、その競技やいろんな文化活動をほとんど触れたことがない、言ってみたら初心者のような方がしょうがなく受け持っている、そんなこともございますが、地域のそういった皆さん方、文化とかスポーツに精通した方々が部活の指導を行うようなことを組織的に行うのは可能でしょうか。また、先ほどと同じように、問題点があればお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 市内の中学校では3校、延べ6つの部活動に地域住民による部活動指導が行われております。部活動の指導においては、必ずしも専門的な知識や技術を持った教職員が指導にあたることのできる状況ではないため、地域住民による部活動指導は必要であり、さらに今後も増加することが期待されております。しかし、問題点といたしましては、1点目としては、顧問教員と指導方針の違いによる児童生徒の動揺、2点目としては、活動中の本人の負傷及び児童生徒の負傷への対応、3点目として、外部指導者と保護者とのトラブルなどが危惧されるところでございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。3校6つのクラブで行われているということでもございまして、課題もあるということですが、教員と生徒だけではなくて、地域の人たちが間に入るというのも非常にいいことだと思いますので、増えていくようなことを期待しております。

続きまして、図書館の移転について伺います。こちらは印象として、ものすごくスピード感を持って事に当たられているなという印象がございまして。市民との情報交換という点について十分に行われたのか、それについての認識をお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 図書館の移転につきましては、台風26号による被害以前から庁内で協議しております。茂原市立図書館協議会、茂原市公民館運営審議会においても協議・検討を続けてまいりました。また、5月には図書館利用者アンケートを実施し、図書館の改修等に対する御意見を伺ったところでございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） アンケートというのは、見せていただいたら、5月23日から25日までの3日間、187枚ということでございますし、図書館協議会というのはどういったメンバーで構成されているのでしょうか。まずそこからお聞かせをください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 茂原市立図書館協議会は、学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者及び学識経験者7名で組織されております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。この図書館協議会、前回、8月に行われて、

その前が6月、次、ぜひ傍聴したいなと思ったら、あしたの6日、10時から開催されるとホームページに載っておりました。あした、御存じのとおり、10時は、私は議会があるので傍聴ができないので大変残念でございます、議題が、駅前学習プラザ茂原市立図書館の移転及び指定管理者制度導入の答申についてとありますが、議会の前に答申を決めて議会に諮るならわかるんです。あるいはこの移転の議決を行ってから答申を議論するのだったら、これもわかるんですけれども、同時並行というのはどうなのかなという感想を持っています。もし何か、この件につきコメントがあればお願いします。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 10月21日開催の図書館協議会において、図書館の駅前プラザへの移転及び指定管理者導入について御承認はいただいております、協議会として承認をいただいているということは事実としてはございますので、御理解をいただきたいと思っております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） 続きまして、駐車場と駐輪場の確保について伺おうと思ったんですけれども、これまで何人かの議員が聞いておりました。90分までの駅前駐車場の券を出す、それからサンヴェルの駐輪場が126台あるということでしたが、無料の時間を2時間にするとか、自転車の台数を十分確保するとか、そういったことの御配慮をお願いします。答弁は結構です。

読み聞かせの教室など、現在行われておりますけれども、子供連れへの配慮をお願いしたいと思っております。中にはベビーカーを押してほかの子供の手を握って、雨でも降ろうものなら傘をさしたり、そういった親子がああ交差点を渡っていく姿というのを想像しますと、もう少し何か配慮いただきたいなというようなところがございます。例えば子供連れに配慮して、読み聞かせ教室などを他の場所で開催するとか、あるいは子供用の図書館のようなものをつくるとか、そういった可能性について伺います。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 読み聞かせ教室につきましては、新しい図書館に子供コーナーを設置して開催を考えております。また、各福祉センターに児童センターが設置されておりますので、今後、図書館ボランティアによる読み聞かせ教室等の開催についても検討してまいりたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。しっかりと検討を行っていただければと思い

ます。

続きまして、サンヴェル再開発ビルの契約、賃借料とか期間、あるいは契約の内容の見直し、そういったことはどうなっておりますでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 初めに、図書館の指定管理期間を平成26年度から平成30年度までの5か年と考えております。今後、南総通運株式会社と契約の期間や賃料についての詳細な交渉をしてみたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。しっかりと交渉をしておいていただければと思います。

続きまして、現在の図書館、土地建物がありますけれども、雨漏り、老朽化ということですが、取り壊したりするんだったら、その跡地になろうかと思いますが、利用方法についてお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 現在の図書館については埋蔵文化財、教育委員会で何か所か市内に置いてあるところがありますので、それを保管する場所、あるいは教育委員会の倉庫として活用していきたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。雨漏りがするということですので、しっかりと保存ができる体制をとっていただきたいと思います。

続きまして、指定管理者の募集ということですが、この内容についてお聞かせをください。お願いします。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 茂原市立図書館指定管理者募集要項を策定し、募集するとともに、指定管理者仕様書において管理運営方法を指示してまいります。選定にあたりましては、公立図書館の管理に関する考え方や、本市図書館の基本方針及び運営方針に基づく事業計画、市の図書館事業と同等以上のサービスの提供、職員体制や配置、図書館の指定管理や業務委託の実績等をプロポーザルによって提案していただき、経営収支を勘案した持続性のある指定管理者を選定してみたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。その中で、先進の図書館、指定管理をしているところで武雄市とか海老名市ではカフェが設置をされていて大変好評だということでございますが、こういったカフェを茂原市の図書館で設置するといった可能性はいかがでしょうか。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 自動販売機等の設置は考えておりますが、カフェの設置は考えておりません。並びに書籍の販売も考えておりません。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。本を読みながら憩える、そんな空間もつくっていただきたいと思います。

続いて、現在の職員配置につきましては、昨日から重複しておりますので、司書の方は配置換えなどを行って資格を有効に生かしていただく、臨時職員の皆さんについては継続雇用を委託先をお願いするというようなことでございますので、こちらは結構です。

それから、広報もばらに、市内の金坂医院より、図書館へ100万円の寄附をいただいたということですが、この寄附の使い道についてはいかがされるのかお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 100万円の寄附金は、茂原市立図書館の図書購入のために役立ててほしいとの申し出がありましたので、市として、水害で損害を受けた図書の購入に利用させていただきたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。先ほどから話がありますけれども、しっかりと本を選んでいただいて、有効に使っていただきたいと思います。

また、顕彰碑というわけではないんですけれども、何かしらの感謝の意味を長く伝えるために、何かモニュメントとか、こういったような御配慮をお願いしたいと思います。感謝の意をぜひとも伝えるような形をお願いしたいと思います。

いろいろと厳しいことも申しあげましたけれども、市民サービスの向上を願ってのことですので、御容赦をいただきたいと思います。

それから、教育委員会の会議の資料、たまたまネットで見たんですけれども、これから年1回以上のアンケートを実施するというところでございました。9月29日開催の教育委員会の資料にありましたので、こういったことを通して、しっかりと市民ニーズをすくい上げていい図書館にしていただきたいと思います。今回、事業評価シートというのが茂原市ではあるよ

うでございまして、現在の図書購入費、平成25年度は700万4000円ということですが、平成26年、平成27年度見込み、各1600万円に増額になるというような目論見があるようですので、こういったことにしっかりと取り組んでいただいて、移転してよかったなど言えるような体制をぜひお願いしたいと思います。

それから、契約途中ですね、指定管理の中でもこういった要望が、ぜひとも5年の中で、当初の契約に入っていないようなことでも柔軟に対応していただけるような余地をぜひ残していただけるように要望いたします。

続きまして、台風への対応について伺います。原因の分析等も伺いたかったんですけども、昨日来、重複をしておりますので、まだ結果も出ていないということですので、こちらの答弁は割愛をさせていただきます。

それから、金坂議員の先ほどの質問にもありましたけれども、今回、被災時に道路の冠水箇所が多く多くの車両が立ち往生しておりました。こういったことで、道路冠水の状況なども含めて交通誘導ができなかったのか。この点で、警察との連携はどうだったのかについてお聞かせをください。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 御指摘のとおり、今回、道路の冠水で通行が不能であるというような情報につきましては、皆さんにお知らせをすることができませんでした。1つには箇所数が非常に多かったこと、その全貌を把握できていなかったことが主な要因でございます。今御質問にありました警察との連携が、率直に申し上げますと、明確なルールがないと申しましょるか、いわゆる道路が道路としての機能が果たせないという意味におきましては、道路管理者として、例えば市道であれば市、県道であれば県ということになります。一方、交通を規制するとなりますと、これは警察の所管というふうな考え方になります。したがって、今回の反省を踏まえまして、情報の収集、通行車両に対する対応について十分な検証と今後の改善を十分検討してまいりたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。しっかりとこういった経験を生かしていただきたいと思います。

続きまして、住民への情報提供について、防災無線の受信機の配付についてお伺いする予定でしたが、これも重複をしておりますので、今のところあまり配置は前向きに考えてないようでした。それから、君津市で5000円という話がありましたけれども、市原市では6000円

の受信機を2000円で、1500円の外付けアンテナを500円で販売をしております。茂原市では安価な受信機の調達は検討していないということなんですけれども、市原市の場合、貸し出しをして、その家で感度がいいか悪いかをきちんと調べてから購入できるというようなことがありますので、御紹介をしておきます。現在の使われているアナログの周波数が、聞くところによりますと平成34年まで、場合によってはもっと早く使えなくなるということでございまして、そういったこともあってアナログのこういった受信機の設置を見合わせているというようなことを当局から聞きましたので、デジタル対応の受信機が高いということもありますので、引き続き調査検討を行っていただきたいと思っております。

続きまして、安全安心メール、先ほど来、エリアメールというようなこともあったんですけれども、せっかく市のほうで登録をお願いしている安全安心メールの活用、私も登録していて、届いていなかったような印象がありました。そのあたりの状況についてお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 台風26号の際につきましては、緊急情報であります避難勧告を迅速に伝達するために、市内全域に一斉配信できるエリアメール、また緊急速報メールが有効と判断いたしまして、こちらを優先して活用したところでございます。ところが、携帯電話会社ごとに入力する必要がございまして、このことに手間取りまして、もばら安全安心メールによる情報伝達は行えなかったというのが実態でございます。この反省と、エリアメールや緊急速報メールの受信がなかったという御指摘をたくさんちょうだいしましたことから、台風27号の際には安全安心メールも活用いたしまして、情報伝達を行ったところです。

なお、また、さらにエリアメールや緊急速報メールの受信ができなかったという話もございしますが、これは携帯電話各社によりまして対応する機種が限定されているという事情によるものでございます。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。私も実は使っている携帯が、機種が大分古くて、そういったこともあったのかとは思っています。いわゆる私もガラ携というものを使っております、スマホではないんですね。携帯電話用の茂原市のホームページ、これもあるんですけれども、開けてみたところ、東日本大震災の記事が載っているというような状況だったんです。こちらもぜひ、情報弱者じゃないですけれども、しっかりと緊急時に、命綱的な部分がありますので、対応していただければと思います。

それから、あわせて、千葉県の防災ポータルサイトで、一宮川、阿久川の水位、市内の長生

土木事務所、真名の降水量がわかる、そういうページがあります。それからまた、行政無線の内容を電話で確認できるフリーダイヤル、0120-438-119、「市民は119」というのがあるんだそうですけれども、そちらのほうの周知もあわせてお願いをしたいと思います。答弁は結構です。

それから、今回、台風で日本語を解さない外国人、聴覚障害者、こういった方々は音声的、あるいは言語的に情報が入りにくいと思うんですが、このあたりについての情報提供の考え方をお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） まず1点目の日本語を解さない外国人の方々への情報提供でございますけれども、今回は、対応はいたしておりません。これにつきましては、伝達方法も含めまして検討してまいりたいと思います。

次に、聴覚障害者の方への情報提供についてでございますけれども、エリアメールや緊急速報メールによる情報の伝達を行ったことが有効であると考えております。これは市内全域に一斉配信ができますとともに、ポップアップが表示されますことで、一般のメールよりも気づきやすく、聴覚に障害のある方への伝達には有効であると判断はしております。また、各種支援につきましては、ホームページや広報臨時号による周知に努めたところでございます。以上でございます。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。ぜひともそういった方々への御配慮もお願いしたいと思います。

今回の台風被害を踏まえて、情報提供についていろいろとあったと思うんですけれども、まとめとして、今後の対応についてお聞かせをください。27号の接近時に土のうを配っているのを知らない方が結構いらっしゃったので、こういったことをしっかりと周知をお願いしたいと思います。答弁をお願いします。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 御指摘の意味も含めまして、市民の皆様への情報提供につきましては、避難準備情報なども含めまして早期に、確実に、複数の手段を使いまして繰り返し数多くの情報を伝達するように努めてまいりたいと考えております。よろしくお願いたします。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございました。よろしくお願いたします。

続きまして、最後、避難所の見直しにつきまして、先ほども御答弁ございました。きのうの質問でも、障害者とか高齢者、福祉避難所というお話がありました。こちらの御検討もお願いしたいと思います。

今回、避難所を実際、33カ所運営をされたということで、運営のノウハウといったものが蓄積をされたと思いますけれども、その中で、防災備蓄品の充実について必要性などをお感じになった、これがあつたほうがいいなというのがあろうかと思うんですけれども、そのあたりをお聞かせください。

○副議長（鈴木敏文君） 総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） このたびの水害で新たに必要となった備蓄品につきましては、マッテレス、乳幼児用の食料、避難された方々のプライベートを確保するための間仕切りでございます。これらにつきましては、今後、備蓄する方向で検討してまいりたいと考えております。

○副議長（鈴木敏文君） 前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。何回もあつては困ることなんですけれども、こういったことを生かして、次に備えをしていただければと思います。市長のほうから、4回目の水害を起こしてはいけないという強い決意を昨日から何回も伺っております。そのために最大限の備えを、茂原市のみならず、国や県と協働して備えなければいけない、これも大切なことだと思います。しかしながら、想定外という部分、その想定外を想定することの大切さを我々は東日本大震災で学んだのではないかと思います。津波は来ないんだということで大きな防潮堤がありました。だけど、それを乗り越えてきた。そういったことで大きな被害が出た。今後も、4回目はないという前提で調整池を掘ったり、堤防を嵩上げしたり、いろいろと対策がとられるでしょう。しかしながら、それも想定外があるかもしれない。想定外の雨量かもしれないし、想定していないような事態が起きて堤防が切れたりするかもしれません。あつてはならない、4回目ですけれども、それにもぜひとも、我々行政、議会は備えなければいけないと思います。しっかりそういった備え、もしもの想定外の準備をしていただきたいということを強く申し述べまして、私の質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○副議長（鈴木敏文君） 以上で前田正志議員の一般質問を終わります。

これをもって本日の議事日程は終了いたしました。

明日は午前10時から本会議を開き、一般質問を続行し、その後、報告第1号から第3号並びに議案第1号から第12号までの質疑後委員会付託を議題とします。

本日は以上で散会します。御苦労さまでした。

午後 3 時 37 分 散会

☆ ☆

## ○本日の会議要綱

### 1. 一般質問

#### 1. 佐藤栄作議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 農業振興について
- ② 交通ネットワークについて
- ③ 市民の自立支援について
- ④ 地域の諸問題について

#### 2. 金坂道人議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 台風26号の災害について
- ② 観光行政について
- ③ 学校施設について

#### 3. 細谷菜穂子議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 水害対策について
- ② 教育問題について
- ③ 治安対策について
- ④ 市民生活について
- ⑤ 自治基本条例について
- ⑥ 市のPRについて

#### 4. 三橋弘明議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 図書の実態について
- ② まちづくり基本条例について

#### 5. 前田正志議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 子育て支援について
- ② 教育・文化施策について
- ③ 安心・安全な地域づくりについて

○出席議員

議長 腰川日出夫君

副議長 鈴木敏文君

1番	飯尾 暁君	2番	小久保 ともこ君
3番	田畑 毅君	4番	山田 広宣君
5番	道脇 敏明君	6番	佐藤 栄作君
7番	前田 正志君	8番	矢部 義明君
9番	平 ゆき子君	10番	金坂 道人君
11番	中山 和夫君	12番	山田 きよし君
13番	細谷 菜穂子君	14番	森川 雅之君
16番	ますだ よしお君	18番	伊藤 すずむ君
19番	深山 和夫君	20番	三橋 弘明君
21番	初谷 智津枝君	22番	竹本 正明君
23番	常泉 健一君	24番	市原 健二君

☆

☆

○欠席議員

なし

☆

☆

○出席説明員

市長	田中豊彦君	副市長	長谷川正君
教育長	古谷一雄君	総務部長	麻生英樹君
企画財政部長	三浦幸二君	市民部長	森川浩一君
福祉部長	岡澤弘道君	経済環境部長	豊田正斗君
都市建設部長	鳩川文夫君	教育部長	鈴木健一君
総務部次長 (総務課長事務取扱)	十枝秀文君	企画財政部次長 (財政課長事務取扱)	酒井宗一君
市民部次長 (市民課長事務取扱)	野島宏君	福祉部次長 (社会福祉課長事務取扱)	矢澤邦公君
経済環境部次長 (環境保全課長事務取扱)	安田勝彦君	都市建設部次長 (土木建設課長事務取扱)	小高隆君
都市建設部次長 (都市計画課長事務取扱)	佐久間静夫君	教育部次長 (教育総務課長事務取扱)	中山邦彦君
職員課長	三橋勝美君	企画政策課長	鶴岡一宏君

☆

☆

○出席事務局職員

事務局長	相澤佐
主幹	岡本弘明
庶務係長	佐久間尉介